

北区民意識・意向調査報告書

<要約版>

調査対象：北区在住の満18歳～80歳の男女2,000人
調査方法：調査票を郵送にて配布後、郵送及びインターネット回収
調査期間：平成30年5月28日～6月22日
有効回収数（率）：763通（38.7%）

平成30年8月

北 区

目 次

1	定住意思	1
2	生活圏・行動圏	3
3	生活環境評価	5
4	区政への関心・評価	7
5	区民とともに	13
6	「子ども」・かがやき戦略	17
7	「元気」・いきいき戦略	19
8	「花*みどり」・やすらぎ戦略	27
9	「安全・安心」・快適戦略	29
10	北区の印象・将来像	31

【1 定住意思】

- ◆北区に住み続けたいという『定住意向』の人が8割超
- ◆北区に長く居住している人ほど、北区への愛着度が高く、定住意向も高い。
- ◆20～40歳代で『転居意向』の人は3割程度。「現在の住宅に不満」、「持ち家を持ちたい」が主な転居希望理由。

<区への愛着度>

◇愛着派が8割超

「愛着を感じる」(38.7%)、「どちらかというとな愛着を感じる」(43.8%)を合わせた『愛着派』が8割を超えている。

<居住年数>

◇短期：中期：長期がほぼ1：1：1の割合

「短期(平成18年以降居住)」(32.5%)、「中期(昭和51年～平成17年から居住)」(32.7%)、「長期(昭和50年以前から居住)」(33.6%)と、約3割ずつの同程度となっている。

◇長期居住者ほど区への愛着度が高い傾向

『愛着派』は居住期間が長くなるほど割合が高くなっており、長期居住者(90.7%)で約9割と高くなっている。

<定住意思>

◇『定住意向』が8割超

「ずっと住み続けたい」(43.4%)、「当分は住み続けたい」(37.6%)をあわせた『定住意向』の人が8割を超えている。

◇区への愛着度が高いほど『定住意向』も高い

「愛着を感じる」、「どちらかというとな愛着を感じる」をあわせた『愛着派』の8割以上が「ずっと住み続けたい」もしくは「当分は住み続けたい」という『定住意向』を持っている。

◇『転居意向』は20～40歳代で3割程度

「いずれは転居したい」、「すぐにでも転居したい」をあわせた『転居意向』の人は、18～29歳(29.7%)、30～39歳(26.7%)、40～49歳(27.3%)で約3割と、60～69歳(10.1%)、70歳以上(10.4%)と比べて高い。

<転居希望理由、転居希望地>

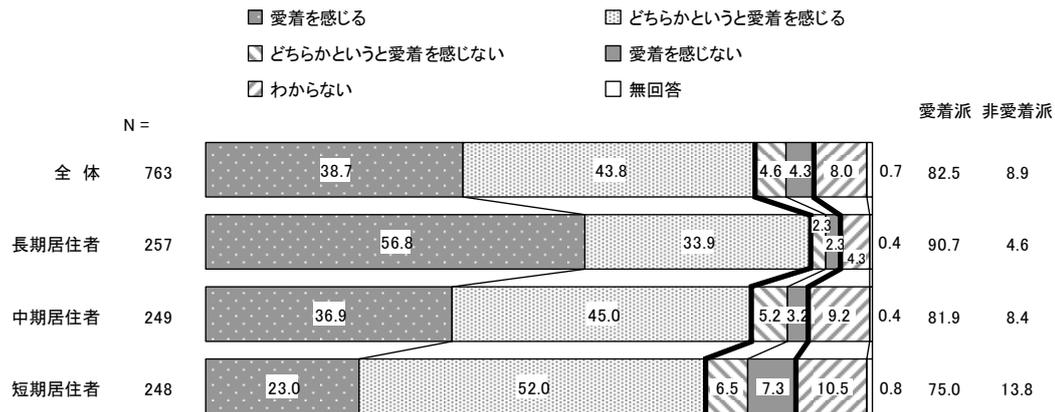
◇20～40歳代の主な転居希望理由は「現在の住宅に不満がある」、「自分の持ち家を持ちたい」

『転居意向』の人のうち、転居希望理由を「現在の住宅に不満がある」とした人が最も多く、18～29歳(31.3%)、30～39歳(31.3%)、40～49歳(36.7%)となっている。次いで「自分の持ち家を持ちたい」が多く、18～29歳(25.0%)、30～39歳(25.0%)、40～49歳(23.3%)。

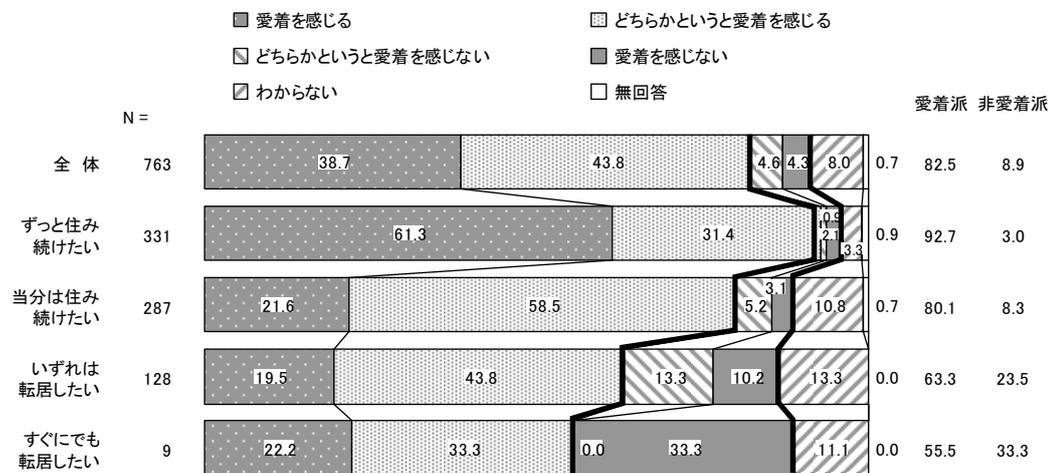
◇転居希望地は、「北区内」が一割半ば

『転居意向』の人のうち、転居希望地を「北区内」とした人が15.3%と最も高くなっている。次いで「千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区」が13.1%、「板橋区、豊島区、文京区、足立区、荒川区」が12.4%となっている。

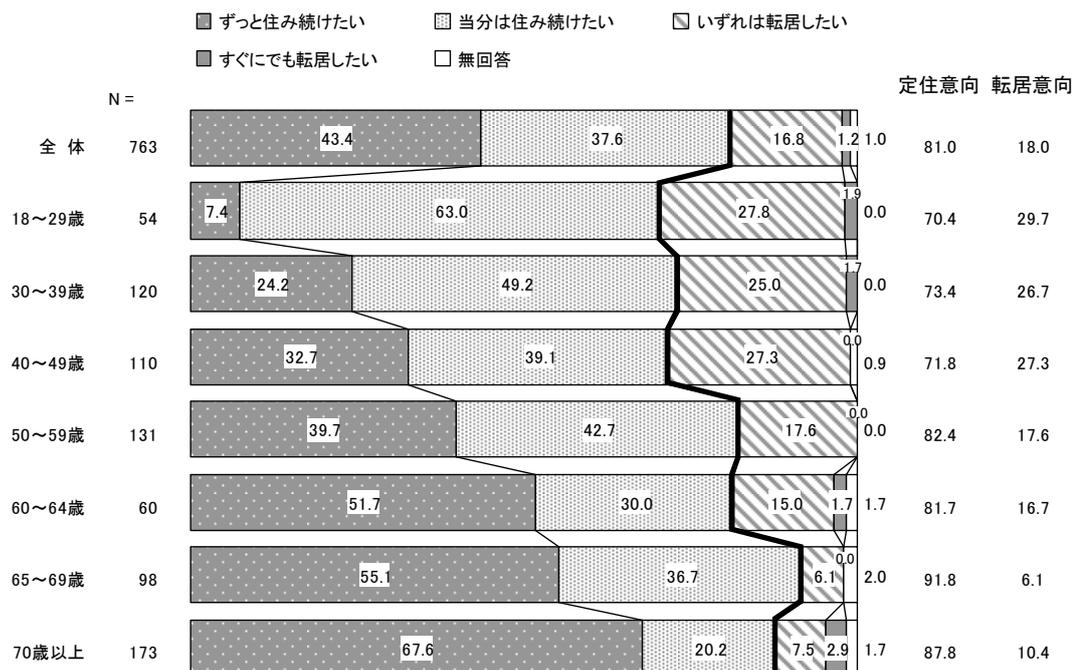
◇長期居住者ほど区への愛着度が高い傾向



◇区への愛着度が高いほど『定住意向』も高い



◇『転居意向』は20~40歳代で3割程度



【2 生活圏・行動圏】

- ◆「図書館」、「北とぴあ・会館」、「公園、児童遊園、遊び場」を利用する人が多い
- ◆徒歩・自転車で買い物をする人が多い

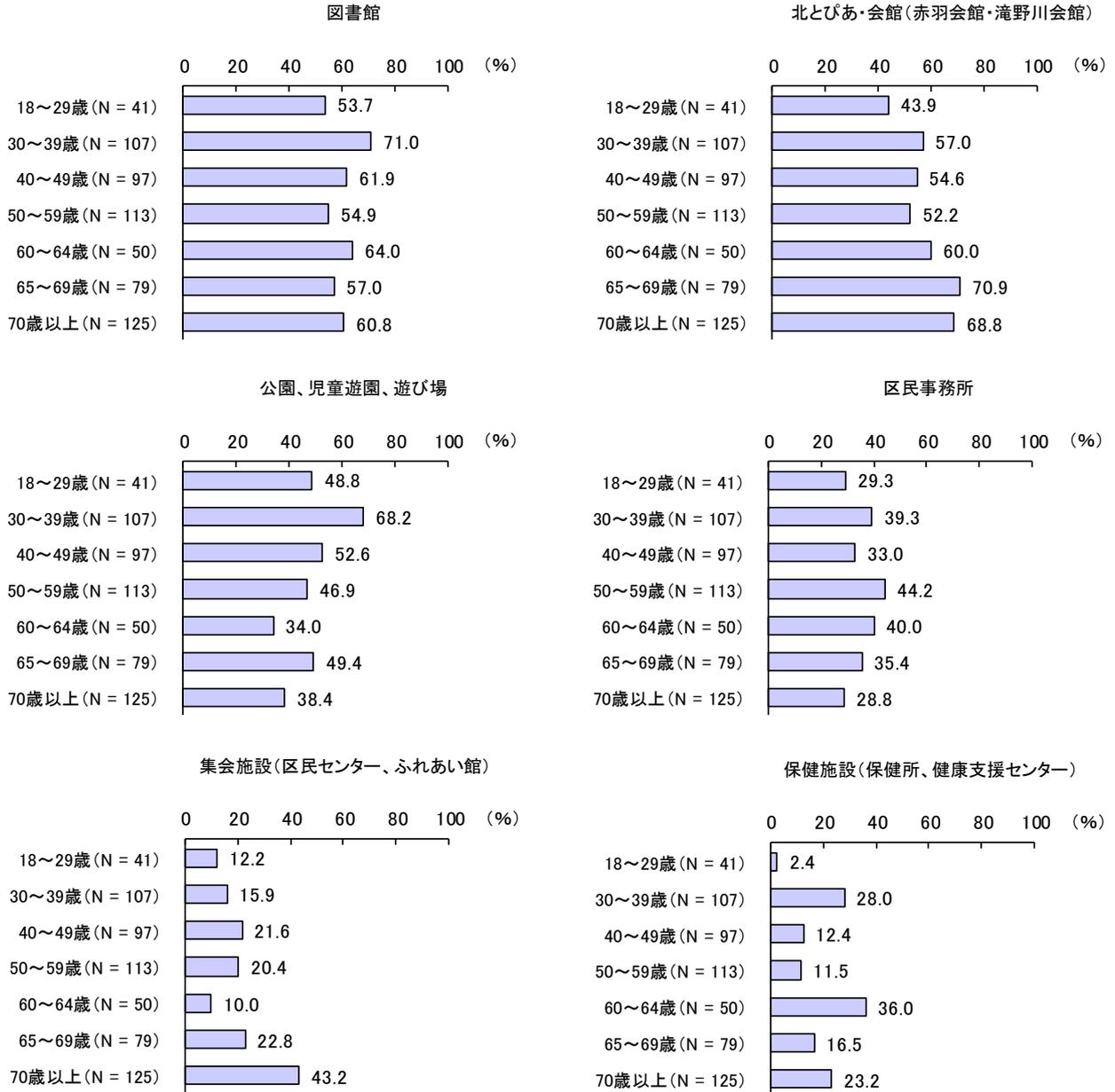
<よく利用する区の施設>

- ◇「図書館」、「北とぴあ・会館」、「公園、児童遊園、遊び場」、「区民事務所」、「集会施設」が多い
「図書館」(60.7%)が最も高く、「北とぴあ・会館(赤羽会館・滝野川会館)」(59.1%)、「公園、児童遊園、遊び場」(49.4%)、「区民事務所」(35.9%)、「集会施設(区民センター、ふれあい館)」(23.5%)と続いている。
- ◇64歳以下では「図書館」、65歳以上は「北とぴあ・会館」が最も利用されている
64歳以下で「図書館」、65歳以上で「北とぴあ・会館(赤羽会館・滝野川会館)」が最も高くなっている。

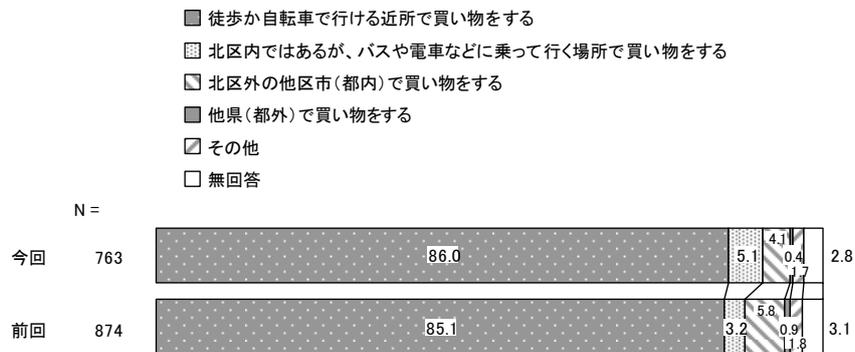
<日用品や食料品の買物圏>

- ◇「徒歩・自転車」で買い物をする人が8割半ば
「徒歩か自転車で行ける近所で買い物をする」(86.0%)の人が8割半ばと突出している。
- ◇「徒歩か自転車」は特に赤羽東で多い。一方、王子西、滝野川西では比較的少ない。
すべての地区で「徒歩か自転車で行ける近所で買い物をする」が最も高いが、赤羽東(98.3%)では特に高い一方、王子西(78.2%)、滝野川西(79.6%)は8割を下回っている。

◇64 歳以下では「図書館」、65 歳以上は「北とぴあ・会館」が最も利用されている



◇「徒歩・自転車」で買い物をする人が8割半ば



【3 生活環境評価】

- ◆『定住意向』の人は、「通勤・通学の便利さ」など生活の利便性の満足度が高い
- ◆『転居意向』の人は、「近所づきあいや地域の連帯感」などの満足度が低い

<生活環境評価>

◇満足度が高いのは生活の利便性。低いのは「まちなかの外国語表記の案内板等」「近代的なまちなみや建物など近代的雰囲気」

満足度が高いのは「通勤・通学の便利さ」、「日常の買い物の便利さ」、「診療所や病院などの医療機関の便利さ」、「ごみの収集・処理」、満足度が低いのは「まちなかの外国語表記の案内板等」、「近代的なまちなみや建物など近代的雰囲気」、「建物のこみぐあい」、「火災・震災時の安全性」となっている。

◇『定住意向』の人は生活の利便性に満足し、『転居意向』の人は「近所づきあいや地域の連帯感」、「風紀・防犯」の満足度が低い。

『定住意向』の人では「通勤・通学の便利さ」、「日常の買い物の便利さ」、「診療所や病院などの医療機関への便利さ」など生活の利便性に関して満足度が高くなっている。『転居意向』の人では、「近所づきあいや地域の連帯感」、「風紀・防犯」の満足度が低い。

<住みやすさ>

◇『住みやすい』が8割半ば

「住みやすい」（41.7%）と「やや住みやすい」（44.3%）を合わせた『住みやすい』が8割半ばを占めている。

◇『住みやすい』と感じるほど「定住意思」が強い

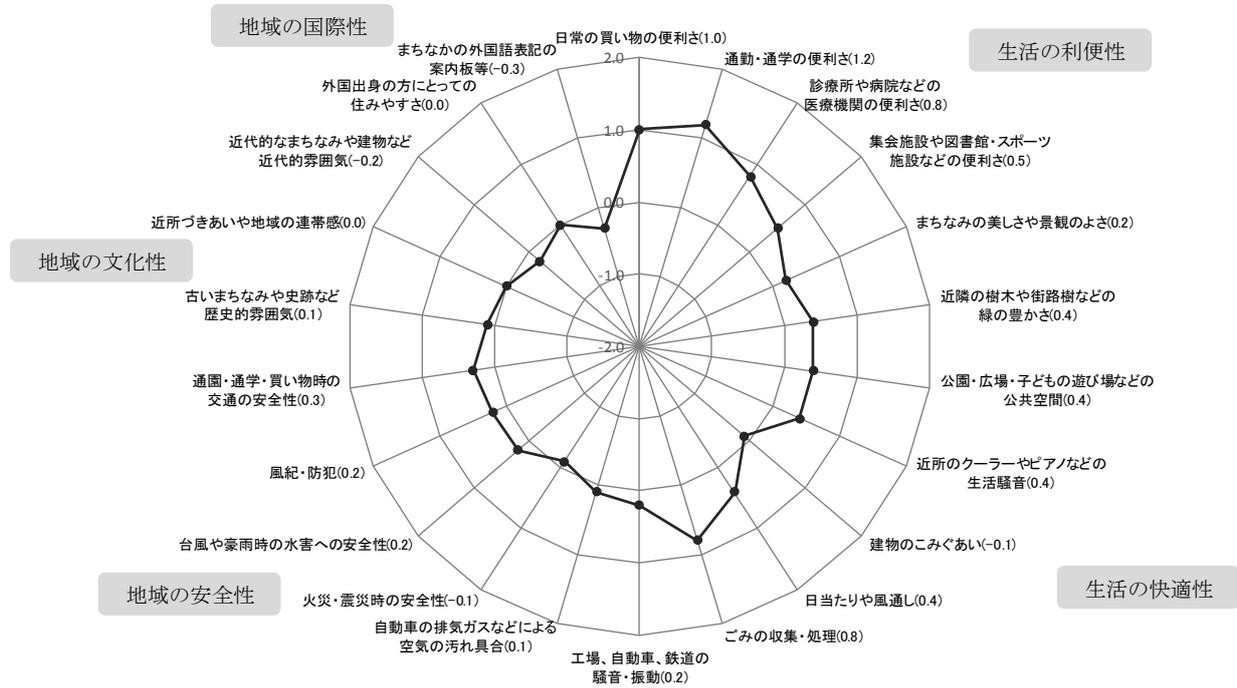
定住意思が強くなるほど『住みやすい』の割合が高くなっており、“ずっと住み続けたい”（93.0%）で9割超と高くなっている。

◇住宅の満足度が高いほど『住みやすい』と感じている

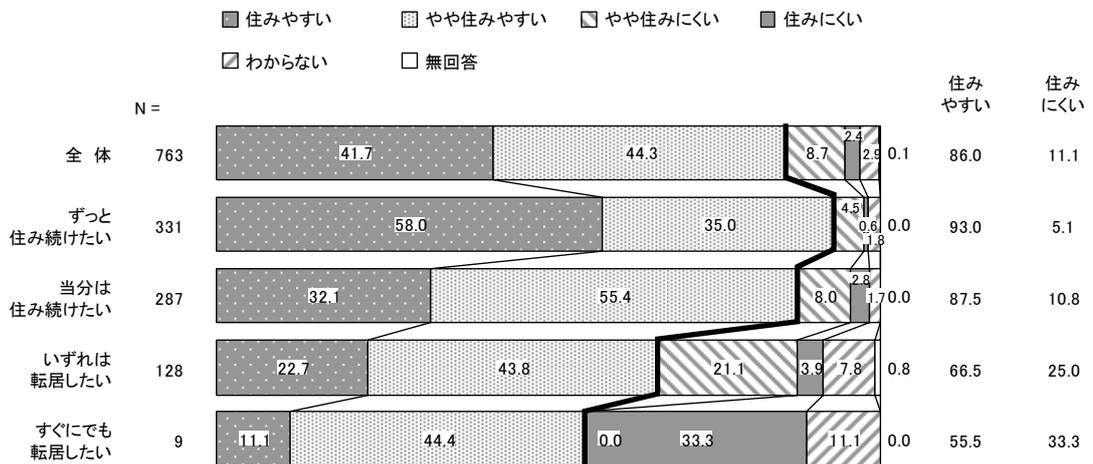
住宅の満足度が高くなるほど『住みやすい』の割合が高くなっており、“満足”（98.5%）でほぼ10割と高くなっている。

◇満足度が高いのは生活の利便性。

低いのは「まちなかの外国語表記の案内板等」「近代的なまちなみや建物など近代的雰囲気」



◇『住みやすい』と感じるほど「定住意思」が強い



【4 区政への関心・評価】

<区政への関心度、区政情報の入手先>

◆高齢者のいる世帯では区政への関心度が高い。情報の入手先は「北区ニュース」が多い

◆若い人やひとり暮らしで関心度が低く、「区政情報は特に入手していない」人が多い

◇区政に『関心』がある人が約6割で前回より増加

「大いに関心がある」(13.4%)と「やや関心がある」(44.8%)を合わせた『関心』が約6割と、前回調査より増加している。

◇年齢が高くなるほど『関心』のある人が多い。

『関心』はおおむね年齢が高くなるほど割合が高くなっている。『無関心』は18～29歳(66.7%)で約7割と高くなっている。

◇家族構成別では“祖父母と親と子(3世代)”で『関心』が7割超

家族構成別では『関心』は“祖父母と親と子(3世代)”(71.4%)で7割超。『無関心』は“ひとり暮らし”(37.4%)が最も高く、3割半ばとなっている。

◇区政情報を「北区ニュース」で入手する人が8割近く

情報の入手先は「北区ニュース」(77.3%)が8割近くと突出して高くなっている。

◇区政への関心度に関係なく「北区ニュース」が最も多い

区政への関心度に関係なく「北区ニュース」が最も高い。なお、区政に関心がない層では「区政情報は特に入手していない」が上位5位に入っている。

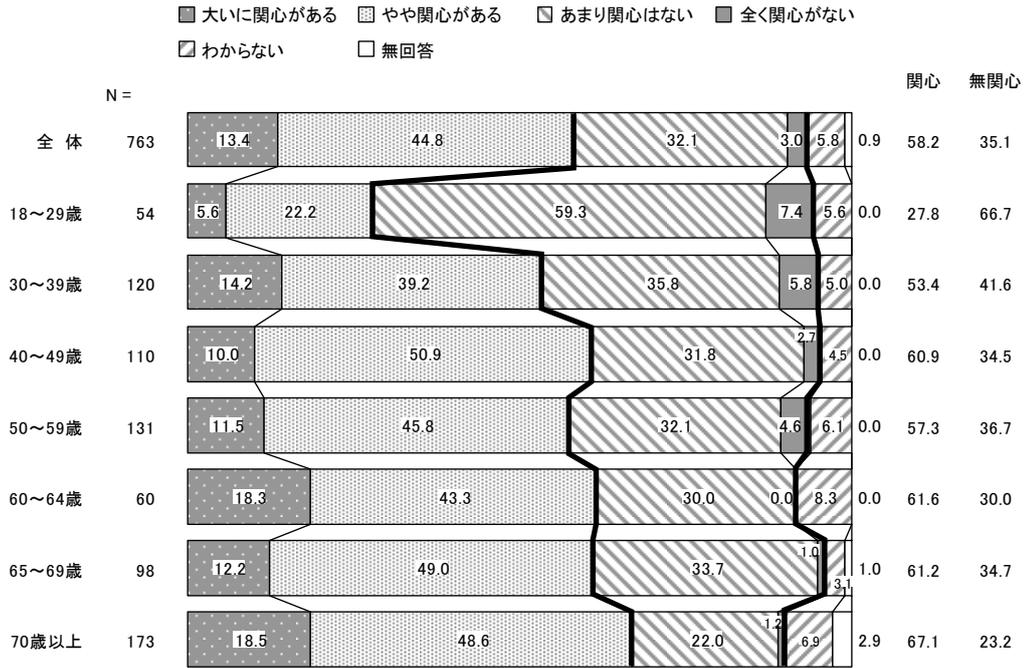
<施策の満足度、重要度>

◇満足度が最も高いのは「健康づくり(保健・医療体制)の充実」。重要度が最も高いのは「防災・防犯」

満足度は「健康づくり(保健・医療体制)の充実」が最も高く、「子育て支援の充実」、「公園や遊び場の整備」、「ごみ減量・リサイクルの推進」、「高齢者・障害者の自立支援の推進」と続いている。

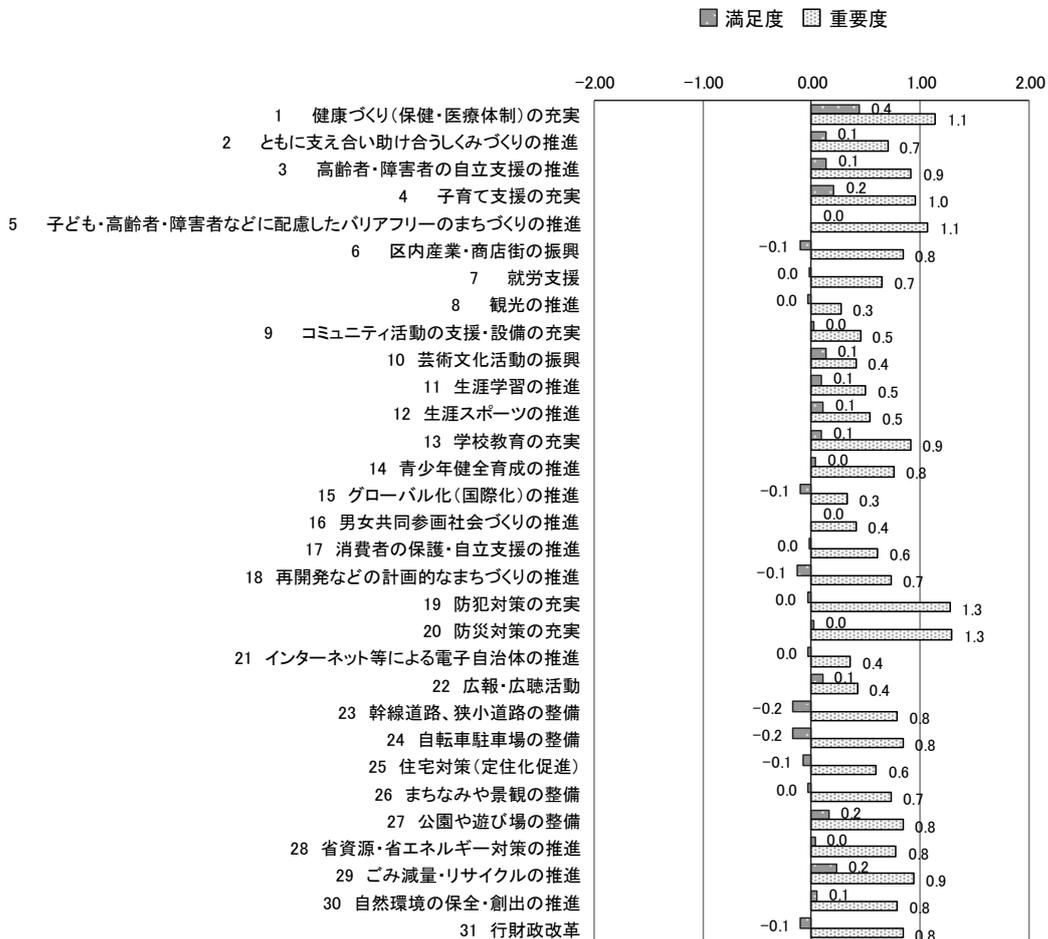
重要度は「防災対策の充実」が最も高く、「防犯対策の充実」、「健康づくり(保健・医療体制)の充実」、「子ども・高齢者・障害者などに配慮したバリアフリーのまちづくりの推進」、「子育て支援の充実」と続いている。

◇年齢が高くなるほど『関心』のある人が多い。



◇満足度が最も高いのは「健康づくり（保健・医療体制）の充実」。

重要度が最も高いのは「防災・防犯」

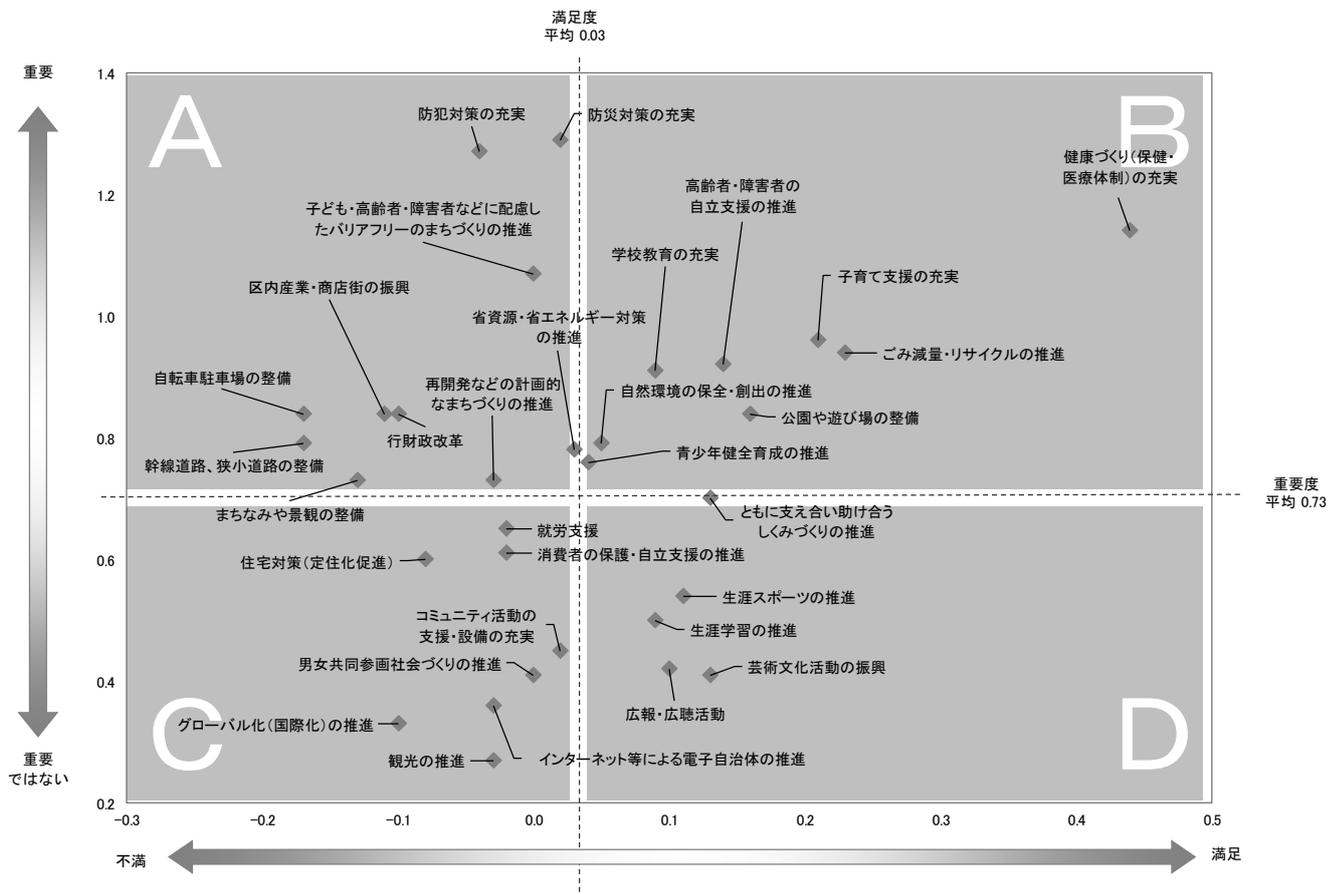


<区の施策の満足度と重要度の相関>

- ◆区が力を入れており、かつ満足度がともに高いのは「健康づくり(保健・医療体制)の充実」「子育て支援の充実」
- ◆重要度が高く、満足度が低いのは「防災対策の充実」、「防犯対策の充実」である。

◇重要度は高いが満足度は低いのは「防災対策の充実」と「防犯対策の充実」

重要度・満足度ともに高いのは「健康づくり(保健・医療体制)の充実」となっている。また、重要度は高いが満足度は低いのは「防災対策の充実」と「防犯対策の充実」となっている。



A: 重要度は高いが、満足度は低い

B: 重要度・満足度がともに高い

C: 重要度・満足度がともに低い

D: 満足度は高いが、重要度は低い

<区職員の対応>

◆利便性の高い窓口の整備、区民にとって気持ちのよい接遇が望まれている

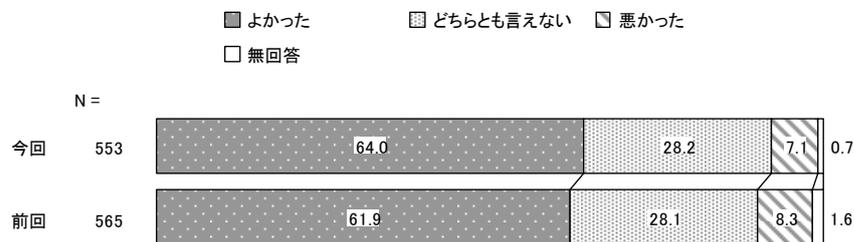
◇職員対応を「よかった」と感じた人が6割半ば

区役所に「出かけたことがある」、「電話をかけたことがある」人のうち、職員の対応を「よかった」(64.0%)と感じた人が6割半ばとなっている。

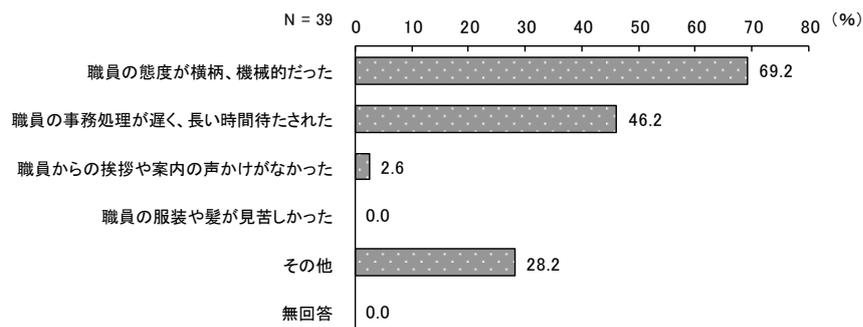
◇よくない印象の理由は「態度が横柄、機械的」、「長い時間待たされた」

対応が悪かったと感じた理由は「職員の態度が横柄、機械的だった」(69.2%)が7割近くと最も高く、「職員の事務処理が遅く、長い時間待たされた」(46.2%)が続いている。

◇職員対応を「よかった」と感じた人が6割半ば



◇よくない印象の理由は「態度が横柄、機械的」、「長い時間待たされた」



<区の経営手法>

◇区が取り入れるべき経営改革は「便利で分かりやすい窓口の整備」「効果の薄れた事業等の廃止、縮小」「未使用の区施設の転用や売却」が上位3位

「窓口の開庁時間の延長や、便利で分かりやすい窓口の整備を図る」(35.1%)が3割半ばで最も高く、「効果の薄れた事業、補助金を廃止、縮小する」(34.9%)、「未使用の区施設に対し、他用途への転用や売却等の有効活用を図る」(31.1%)が上位3位となっている。

<公共施設の運営管理>

◆公共施設の運営費・建設費を、民間の活用や区民ニーズに応じた施設の用途変更、集約化・複合化により削減すべきとの意見が多い

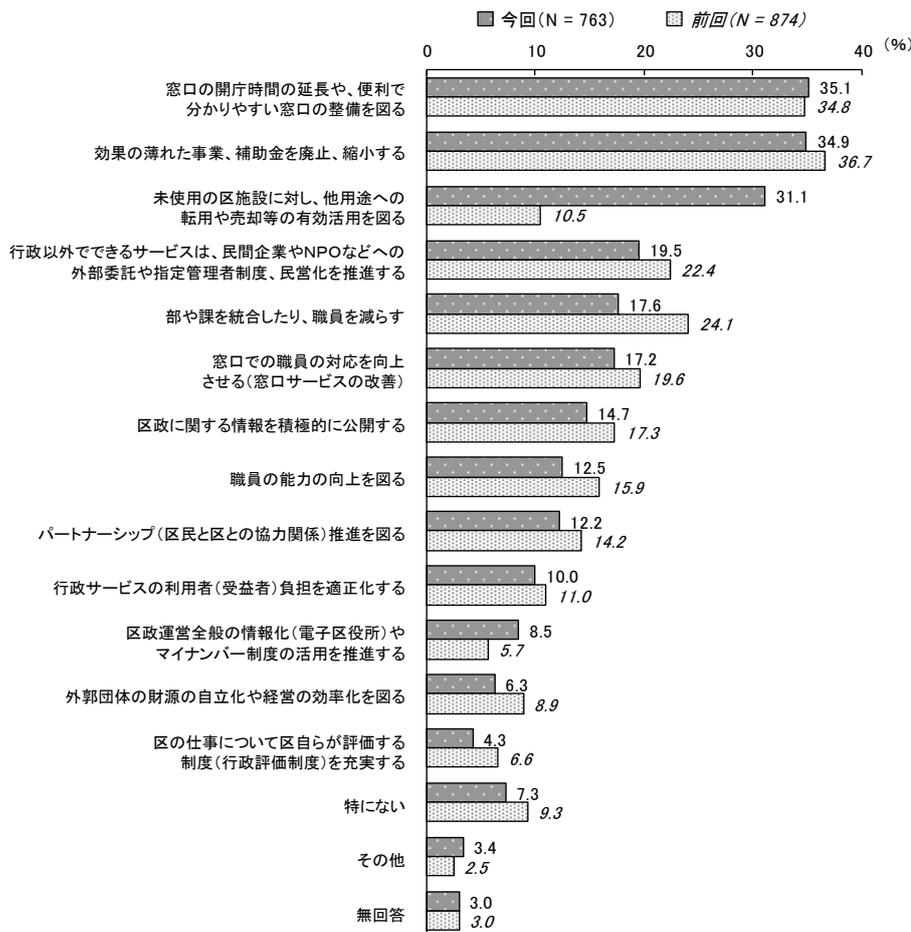
◇経費削減のため減らすべき公共施設は「あまり利用されていない施設」が8割近く

「あまり利用されていない施設」(79.8%)が8割近くと突出して高くなっている。

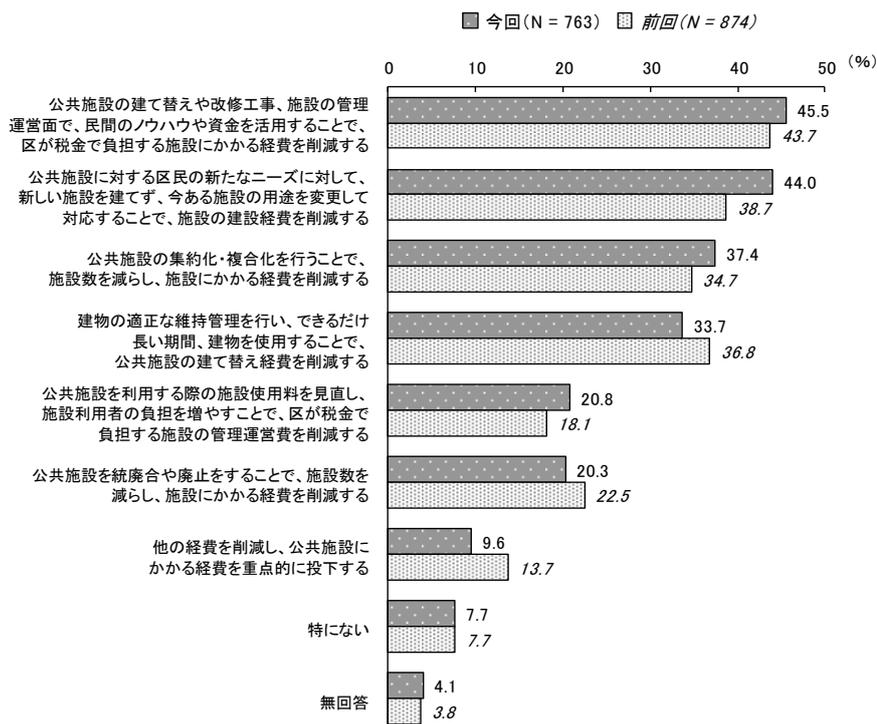
◇公共施設にかかる経費削減には「民間の活力を活用して運営経費削減を図る」が4割半ば

「公共施設の建て替えや改修工事、施設の管理運営面で、民間のノウハウや資金を活用することで、区が税金で負担する施設にかかる経費を削減する」(45.5%)が4割半ばと最も高く、「公共施設に対する区民の新たなニーズに対して、新しい施設を建てず、今ある施設の用途を変更して対応することで、施設の建設経費を削減する」(44.0%)、「公共施設の集約化・複合化を行うことで、施設数を減らし、施設にかかる経費を削減する」(37.4%)と続いている。

◇区が取り入れるべき経営改革は「便利で分かりやすい窓口の整備」「効果の薄れた事業等の廃止、縮小」「未使用の区施設の転用や売却」が上位3位



◇公共施設にかかる経費削減には「民間の活力を活用して運営経費削減を図る」が4割半ば



【5 区民とともに】

<区政参画>

◆区政参画・地域活動に参加したことがある人は 65 歳以上の女性で多く、活動内容は「町会・自治会活動」が突出して多くなっている。

◆区政参画・地域活動に参加したことがない人は 39 歳以下で多い。参加しない理由は「忙しく時間がない」、「きっかけがない」。

◇区政参画・地域活動に参加したことがある人は 1 割半ば

区政参画や地域活動に参加したことが「ある」(14.8%) 人は 1 割半ばとなっている。

◇参加したことが「ある」割合は男性より女性で高い

区政参画または地域活動に参加したことが「ある」人は女性の 65~69 歳 (39.3%) で 4 割近く、女性の 70 歳以上 (24.8%) で 2 割半ばと高くなっている。参加したことが「ない」人は 18~29 歳 (96.3%)、30~39 歳 (95.0%) で 9 割半ばと高くなっている。

◇町会・自治会に加入している人は 6 割近く

町会・自治会の加入にしている人 (58.8%) が 6 割近くとなっている。

◇年齢とともに町会・自治会への加入率が高くなっている。

町会・自治会への加入率は、69 歳以下では男女とも年齢が上がるにつれ高くなっている。

◇区政参加の内容は「町会・自治会活動」が約 7 割

参加した活動の内容を聞いたところ、「町会・自治会活動」(69.9%) が 7 割近くで突出して高く、「防災に関する活動」(25.7%)、「ボランティア活動」(23.9%) と続いている。

◇区政参加しない理由は「忙しく時間がない」、「きっかけがない」をあわせて 6 割半ば

「家事や仕事が忙しく時間がない」(34.7%)、「参加・活動するきっかけがない」(30.6%) があわせて 6 割半ばを占めている。また「興味がない」(15.7%) 1 割半ばとなっている。

◇区政参画を促す施策としては「情報公開など開かれた区政の推進」が 3 割超

区政参画を促すために区が力を入れるべき施策としては「情報公開など開かれた区政の推進」(31.7%) が 3 割超と最も高く、「多様な手段を活用した区政の情報発信」(20.4%)、「区民と一緒に計画を策定し事業を実施する」(20.2%) と続いている。

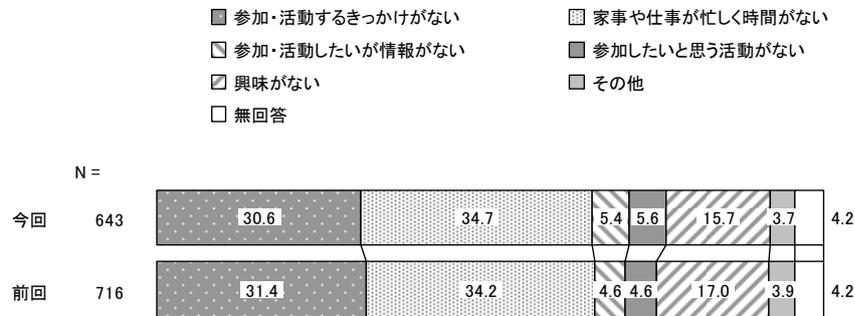
◇区政に興味がない人では「特にない」が 4 割半ば

区政に興味がない人では、区政参画を促すために区が力を入れるべき施策が「特にない」(46.5%) とする人が 4 割半ばと高い。

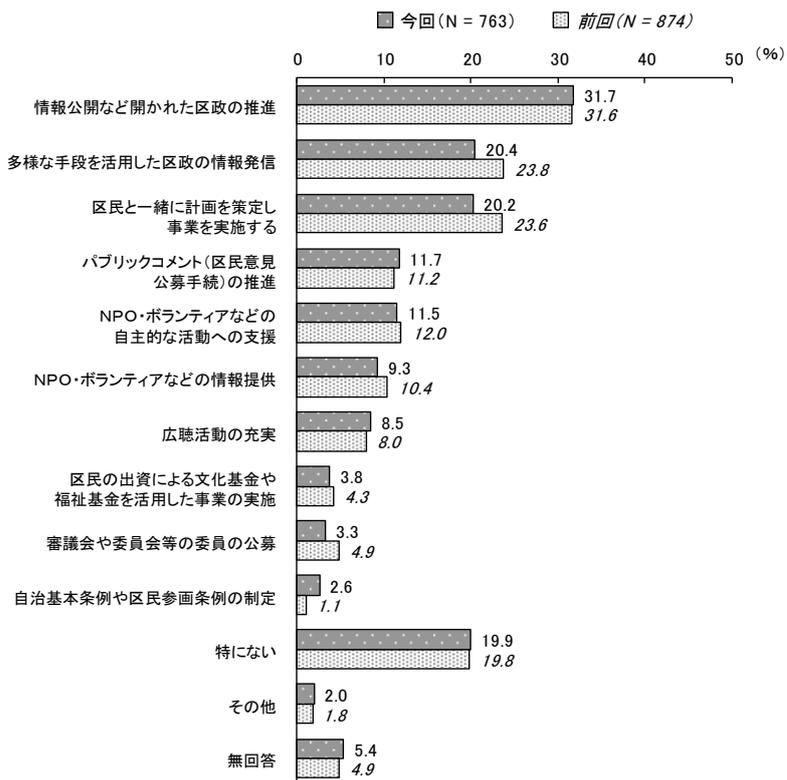
◇区政参画・地域活動に参加したことがある人は1割半ば



◇区政参加しない理由は「忙しく時間がない」、「きっかけがない」をあわせて6割半ば



◇区政参画を促す施策としては「情報公開など開かれた区政の推進」が3割超



<差別や偏見>

◇差別や偏見があると感じる人は2割超

「はい（国籍や性別、年齢、障害による差別や偏見がある）」（22.9%）が2割を超えている。

◇区民の1割半ばが「国籍に関する差別がある」と感じている

差別の内容は「国籍に関して」（65.1%）が6割半ばと最も高く、「障害の有無に関して」（43.4%）、「性別に関して」（33.7%）、「年齢に関して」（32.0%）と続いている。

<国際化推進のために>

◆日本人と外国人が、お互いの文化を学ぶ機会、交流する機会を充実させるとの意見が多い

◇日本人が持つ在日外国人への印象は『好意的』が5割、在日外国人が持つ日本人への印象は『好意的』が9割超

「好意的に思っている」（8.9%）と「どちらかといえば好意的に思っている」（41.5%）をあわせた『好意的』（50.4%）が5割超である一方、「どちらかといえば好意的に思っていない」（29.1%）と「好意的に思っていない」（7.8%）をあわせた『非好意的』（36.9%）が3割半ばとなっている。

◇日本人と外国人の共存に必要なのは「お互いの文化の理解促進」、「コミュニケーションの充実」

「お互いの文化に対する理解促進」（45.2%）が4割半ばと最も高く、「日本人と外国人のコミュニケーションの充実」（33.8%）が続いている。

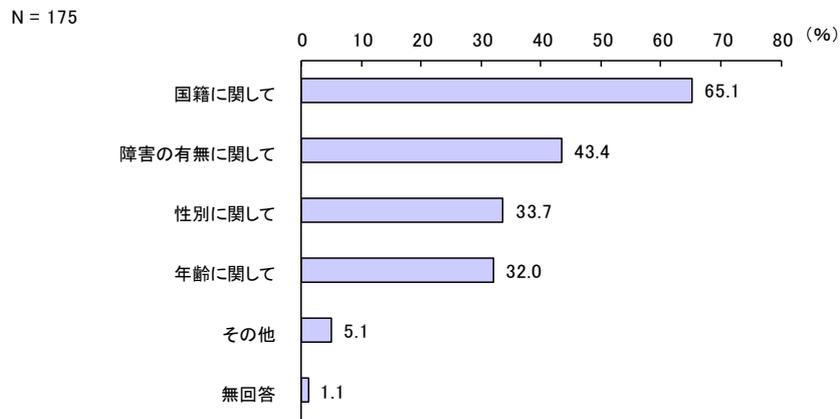
◇国際化推進のためには、日本人と外国人、お互いにお互いの文化を学ぶ機会、交流する機会を充実させることが必要

「外国人区民が日本語や日本文化を学ぶ機会の充実」（36.2%）が3割半ばで最も高く、「異文化理解に関する教育の推進」（32.1%）、「国際交流ができる場や機会の拡大」と続いている。

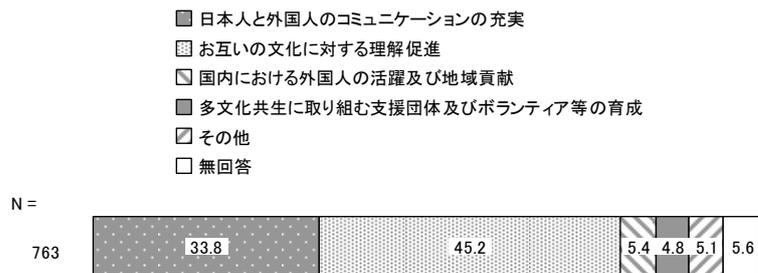
◇差別や偏見があると感じる人は2割超



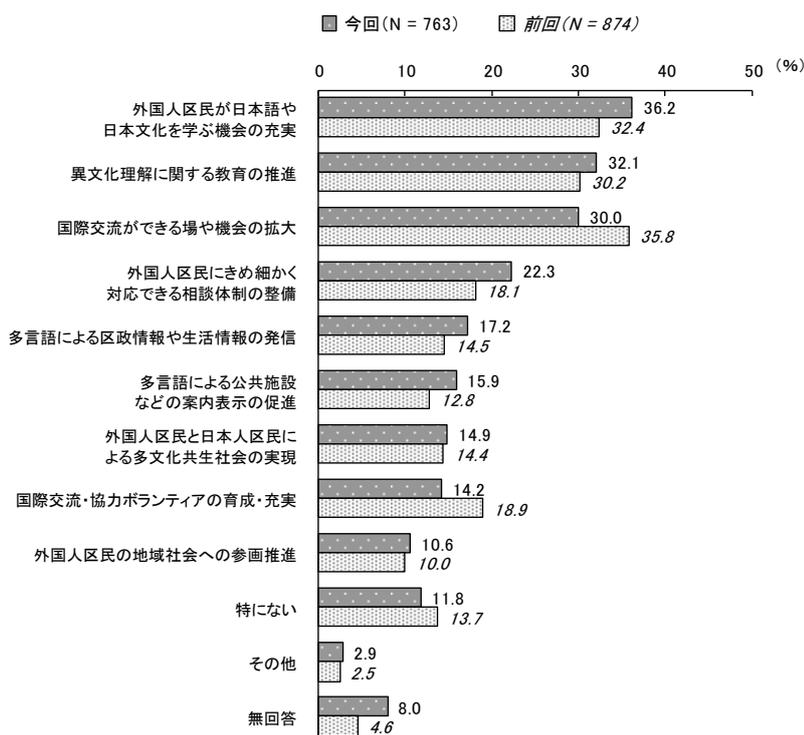
◇区民の1割半ばが「国籍に関する差別がある」と感じている



◇日本人と外国人の共存に必要なものは「お互いの文化の理解促進」、「コミュニケーションの充実」



◇国際化推進のためには、日本人と外国人、お互いにお互いの文化を学ぶ機会、交流する機会を充実させることが必要



【6 「子ども」・かがやき戦略】

◆児童虐待やいじめ問題(不登校対策、道徳・人権教育)といった近年大きな問題となった部分が注目されている

＜子育て支援のための重点施策＞

◇「待機児童ゼロを目指した保育所や学童クラブの整備」が最も多いが、前回調査より減少

「待機児童ゼロを目指した保育所や学童クラブの整備」(31.1%)が3割超と最も高く、「子どもたち向けの自然にふれあえる場の提供」(22.3%)、「様々な集団での経験や高齢者などの異世代との交流の場の提供」(21.0%)と続いている。

もっとも「待機児童ゼロを目指した保育所や学童クラブの整備」は前回調査より大きく減少している。また、「児童虐待防止の取り組みの充実」が増加している。

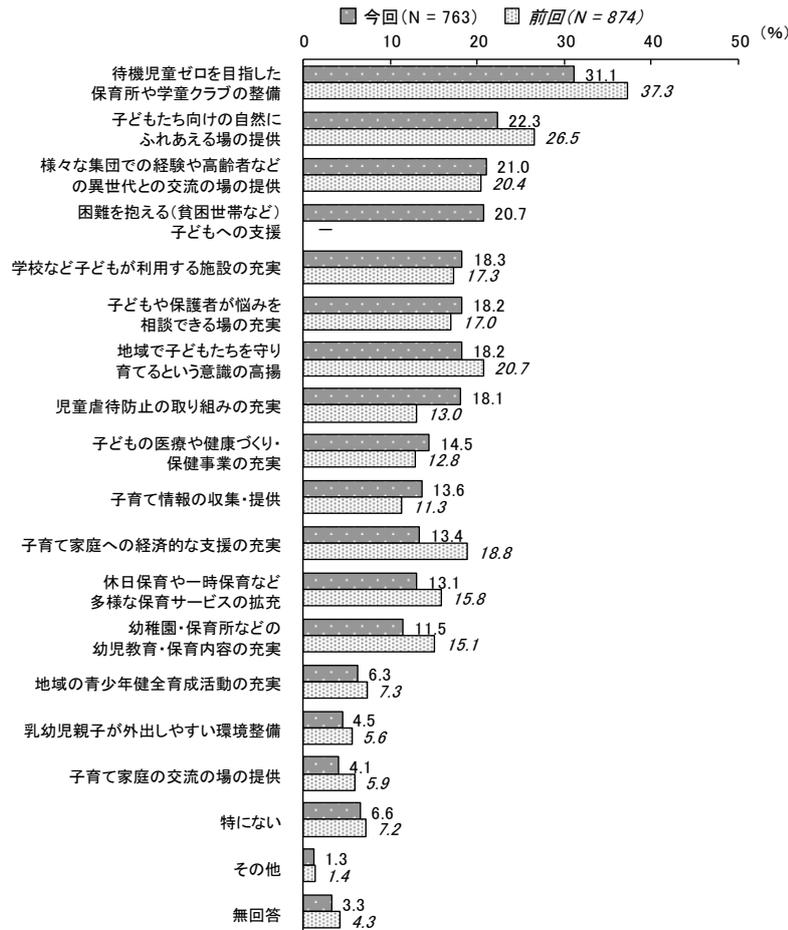
＜学校教育のための重点施策＞

◇人権教育が増加している。

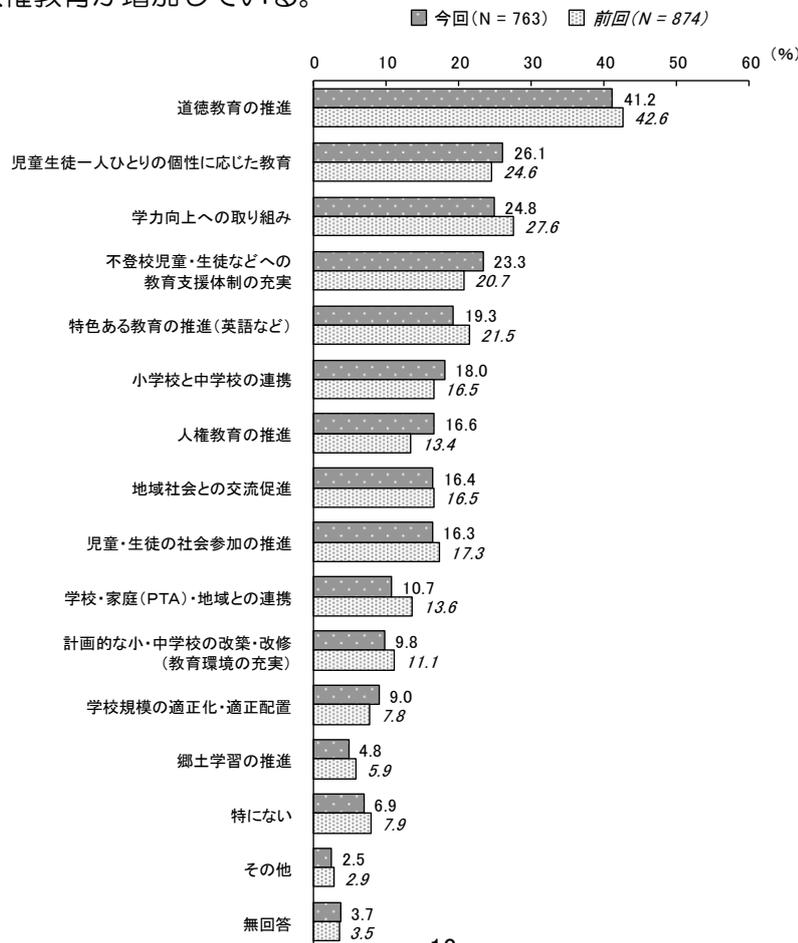
「道徳教育の推進」(41.2%)が4割超と最も高く、「児童生徒一人ひとりの個性に応じた教育」(26.1%)、「学力向上への取り組み」(24.8%)と続いている。

前回調査と比較すると、「不登校児童・生徒などへの教育支援体制の充実」、「人権教育の推進」がわずかに増加している。

◇「待機児童ゼロを目指した保育所や学童クラブの整備」が最も多いが、前回調査より減少



◇道徳教育や人権教育が増加している。



【7 「元気」・いきいき戦略】

＜健康づくりのための重点施策＞

◇「運動できる施設の開放や整備」が4割超

「運動できる施設の開放や整備」（43.4%）が4割超と最も高く、「散歩道や公園の整備」（34.9%）、「利用しやすい健康相談窓口の設置」（15.1%）と続いている。

◇全年齢で「運動できる施設の開放や整備」、「散歩道や公園の整備」が上位2位

すべての年齢で「運動できる施設の開放や整備」、「散歩道や公園の整備」が第1位、2位を占めている。50歳以上では「利用しやすい健康相談窓口の設置」の割合が2割近くと高くなっている。

＜女性が活躍する社会のための重点施策＞

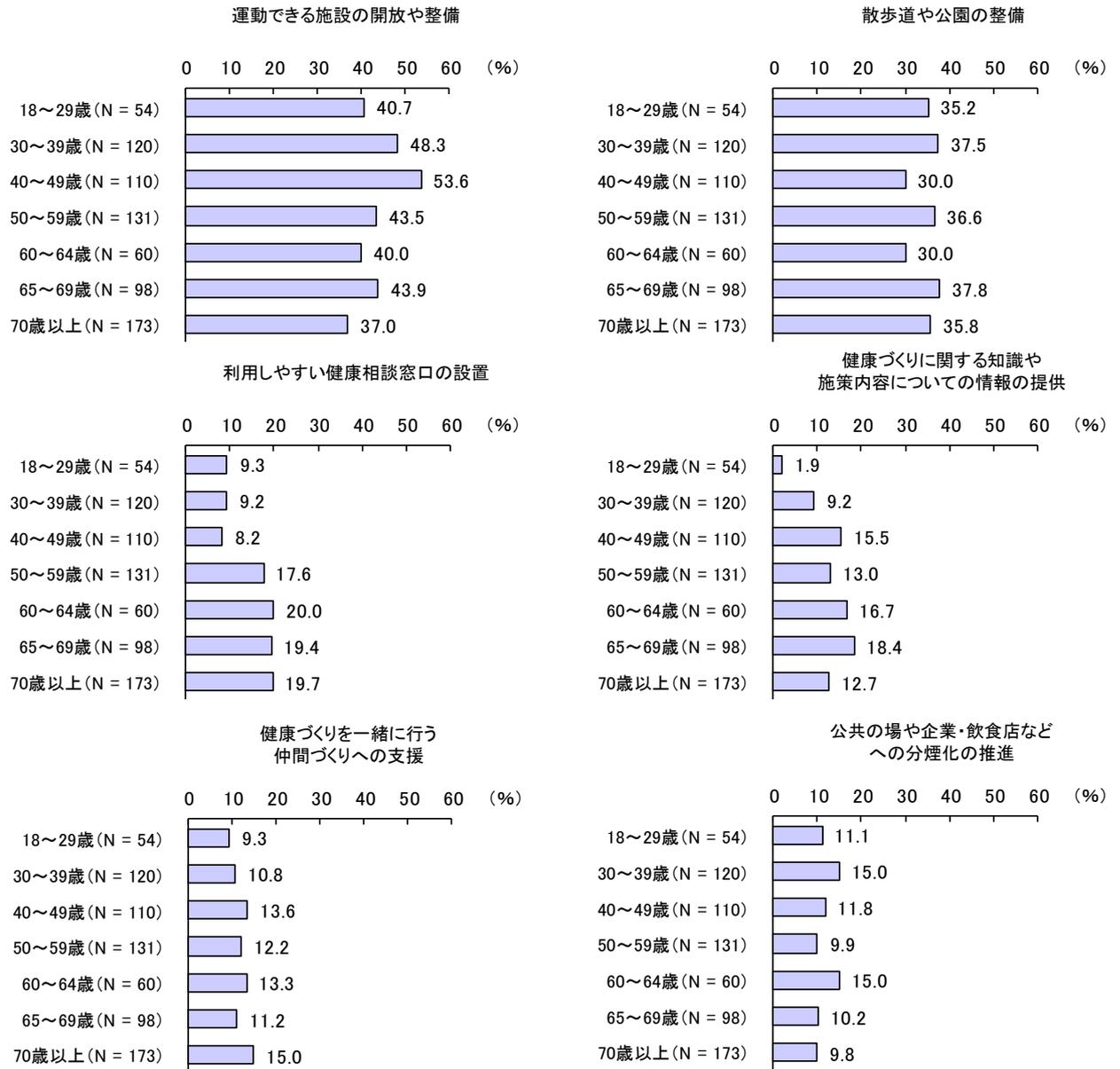
◇「女性の就労の場や機会の拡大」が4割半ば

「女性の就労の場や機会の拡大」（46.9%）が4割半ばと最も高く、「子育て支援施策の充実」（40.1%）、「女性の就労における相談体制の充実」（24.6%）と続いている。

◇男女で1位と2位が入れ替わっている

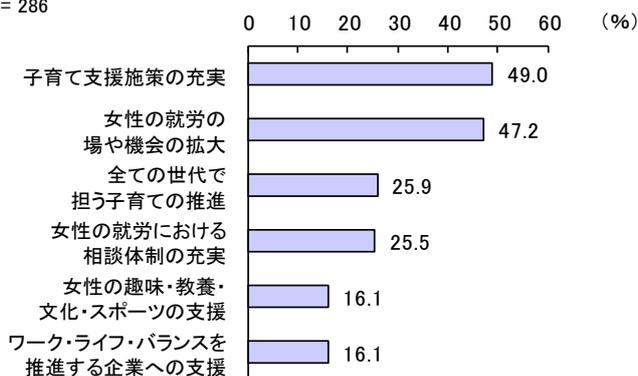
男女とも「子育て支援施策の充実」、「女性の就労の場や機会の拡大」が1位、2位を占めているが、その順位は男女で入れ替わっており、男性では「子育て支援施策の充実」が1位、女性では「女性の就労の場や機会の拡大」が1位となっている。

◇全年齢で「運動できる施設の開放や整備」、「散歩道や公園の整備」が上位2位

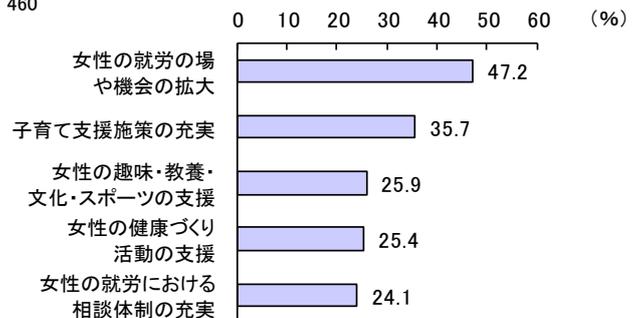


◇男女で1位と2位が入れ替わっている

男性
N = 286



女性
N = 460



＜高齢者のための重点施策＞

◇「高齢者の就労の場や機会の拡大」が3割超

「高齢者の就労の場や機会の拡大」(32.8%)が3割超と最も高く、「介護が必要になったときの在宅療養支援の充実」(21.5%)、「高齢者の保健・医療サービスの充実」(19.9%)と続いている。

◇64歳以下では「就労の場や機会の拡大」、65歳以上は「在宅療養支援の充実」が最も高い

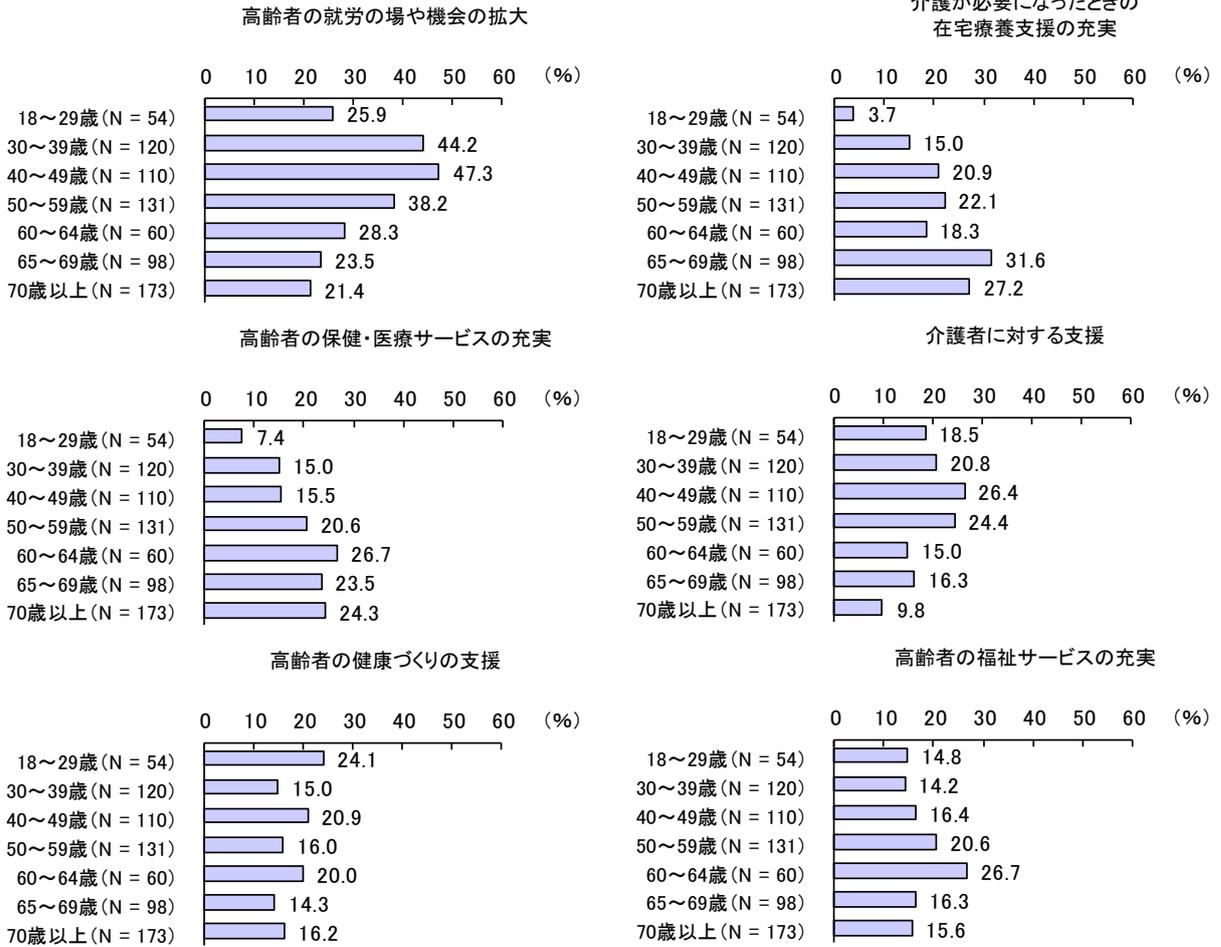
年齢別でみると、64歳以下では「高齢者の就労の場や機会の拡大」が最も高く、65歳以上では「介護が必要になったときの在宅療養支援の充実」が最も高くなっている。

＜障害者のための重点施策＞

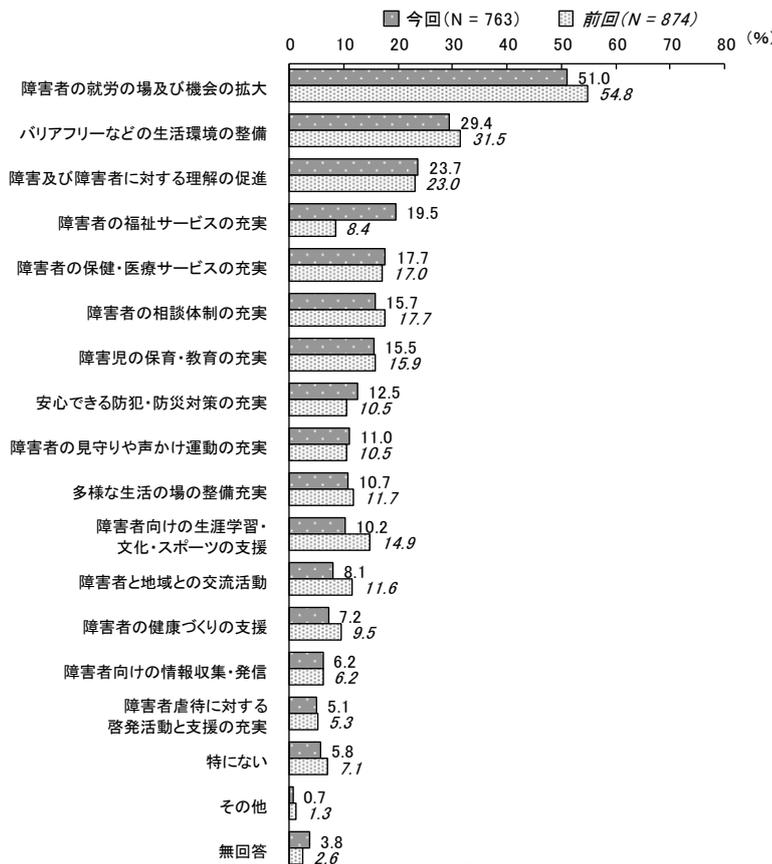
◇「障害者の就労の場及び機会の拡大」が5割超

「障害者の就労の場及び機会の拡大」(51.0%)が5割超と突出して高く、「バリアフリーなどの生活環境の整備」(29.4%)、「障害及び障害者に対する理解の促進」(23.7%)と続いている。

◇64 歳以下では「就労の場や機会の拡大」、65 歳以上は「在宅療養支援の充実」が最も高い



◇「障害者の就労の場及び機会の拡大」が5割超



<産業活性化のための重点施策>

◇【商店街の振興】

「空き店舗活用への支援」が3割近くで、特に30～64歳で支持が高い

商店街の振興については「空き店舗活用への支援」(27.7%)が最も高く「消費者に安全・安心な商品が販売されるための支援」(21.8%)、「楽しく買い物ができる商店街活動への支援」(19.7%)と続いている。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「消費者に安全・安心な商品が販売されるための支援」の割合が高くなっている。また、30～64歳で「空き店舗活用への支援」が高くなっている。

◇【中小企業の振興】

「企業の優れた技術や技能を伸ばし、技術力を継承するための支援」が3割超で、前回調査より増加している。

中小企業の振興については「企業の優れた技術や技能を伸ばし、技術力を継承するための支援」(33.9%)が最も高く、「福利厚生など、中小企業に働く社員のための支援」(24.1%)となっている。

前回調査と比較すると、「企業の優れた技術や技能を伸ばし、技術力を継承するための支援」などが増加している。

◇【区の産業全体】

「地域の資源を活用したビジネスや、住民が地域の課題を、ビジネスの手法を用いて解決する取り組み(コミュニティビジネス)を促すための支援」が2割を超えている

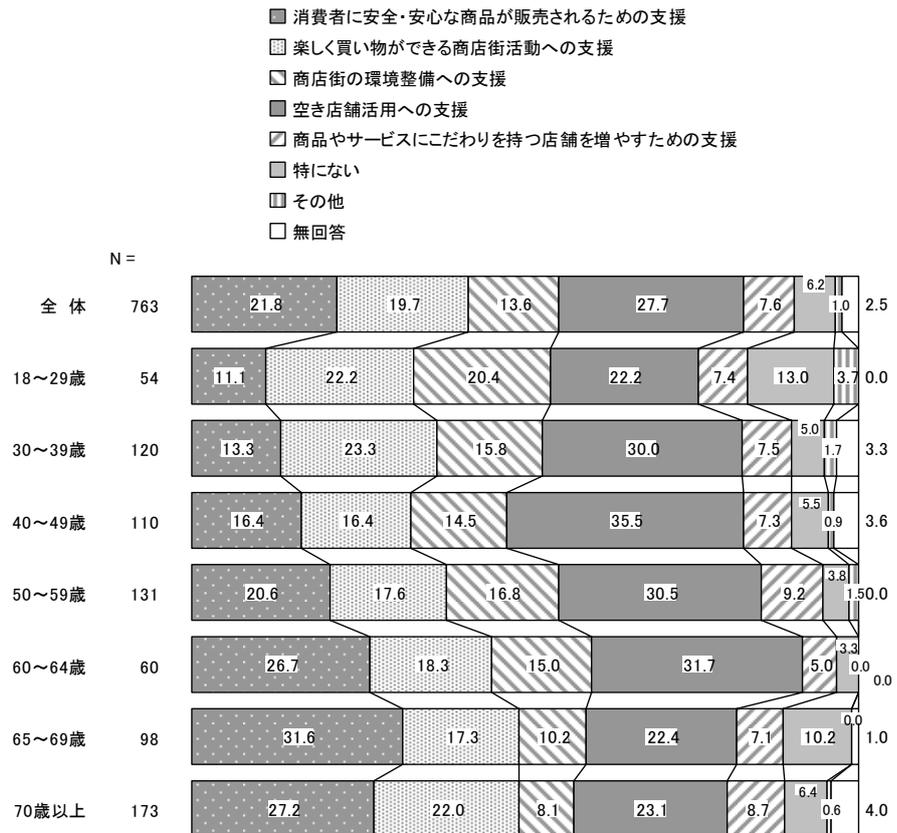
区の産業全体については「地域の資源を活用したビジネスや、住民が地域の課題を、ビジネスの手法を用いて解決する取り組み(コミュニティビジネス)を促すための支援」(21.0%)が最も高く、「自ら事業を行おうとする人(起業家)への支援」(20.7%)となっている。

<地域文化振興のための重点施策>

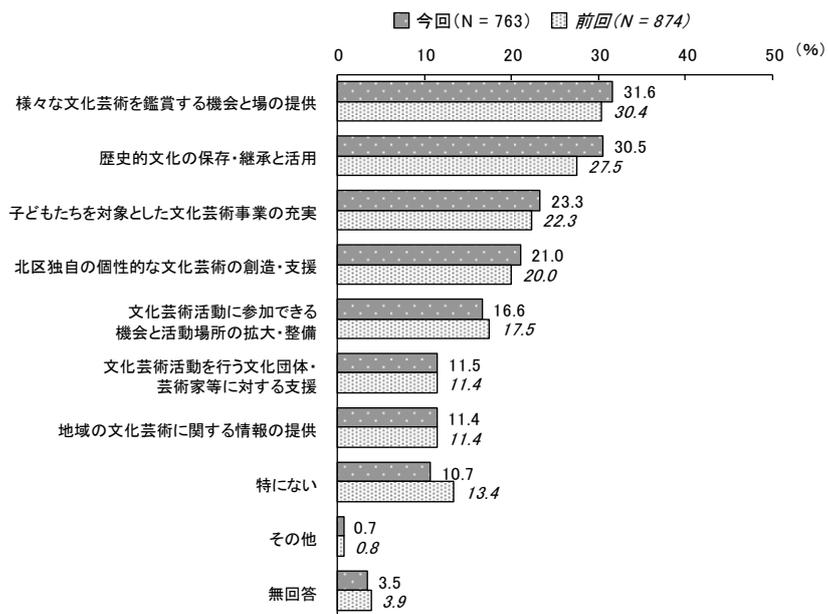
◇「様々な文化芸術を鑑賞する機会と場の提供」が3割超

「様々な文化芸術を鑑賞する機会と場の提供」(31.6%)が3割超と最も高く、「歴史的文化の保存・継承と活用」(30.5%)、「子どもたちを対象とした文化芸術事業の充実」(23.3%)と続いている。

◇「空き店舗活用への支援」が3割近くで、特に30～64歳で支持が高い



◇「様々な文化芸術を鑑賞する機会と場の提供」が3割超



＜生涯学習のための重点施策＞

- ◇「学習の場の充実(図書館や文化・スポーツ施設等)」「多様な学習意欲に応える講座等の充実」が3割以上。60～64歳では「多様な学習意欲に応える講座等の充実」が最も高い。

「学習の場の充実(図書館や文化・スポーツ施設等)」(34.5%)が3割半ばと最も高く、「多様な学習意欲に応える講座等の充実」(30.7%)、「学習に関する情報の提供」(21.2%)と続いている。

60～64歳では「多様な学習意欲に応える講座等の充実」が最も高くなっている。

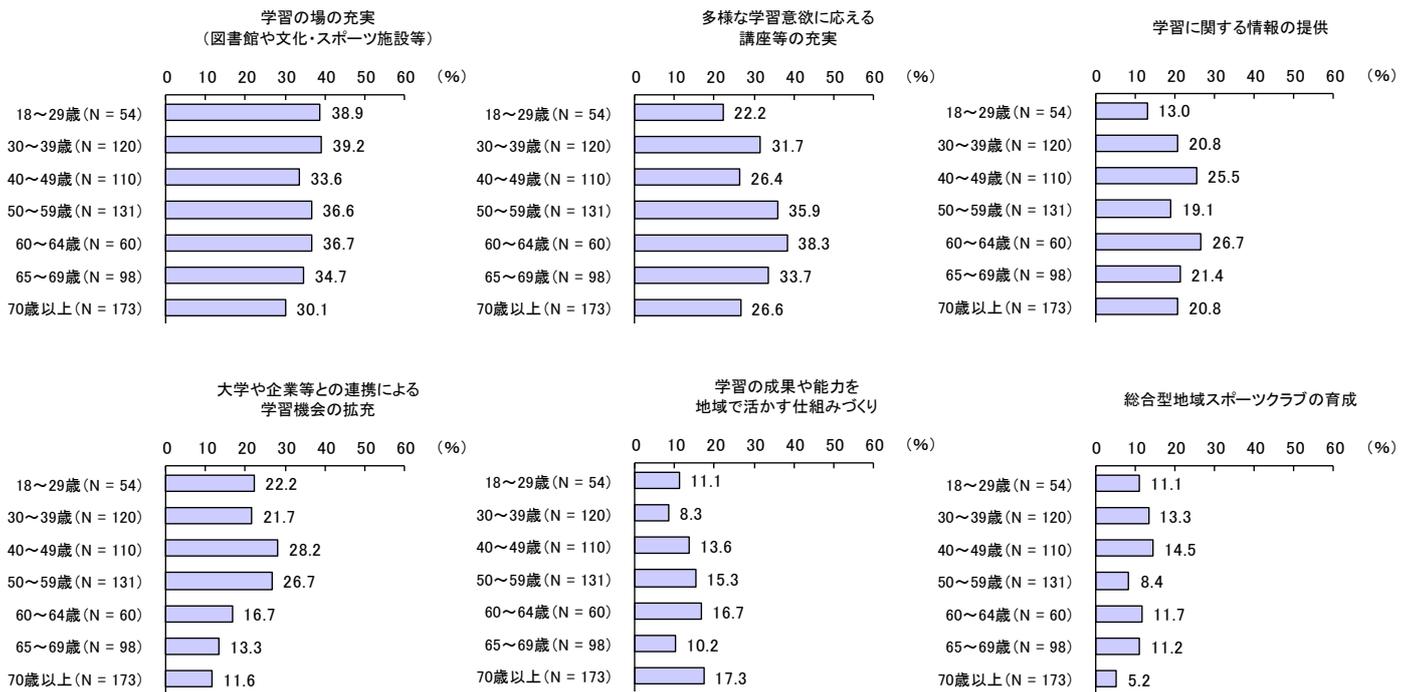
＜観光振興のための重点施策＞

- ◇「地域の自然、歴史的な建造物など景観やまちなみの保全」が5割近くで、30歳以上の年代で最も高い。

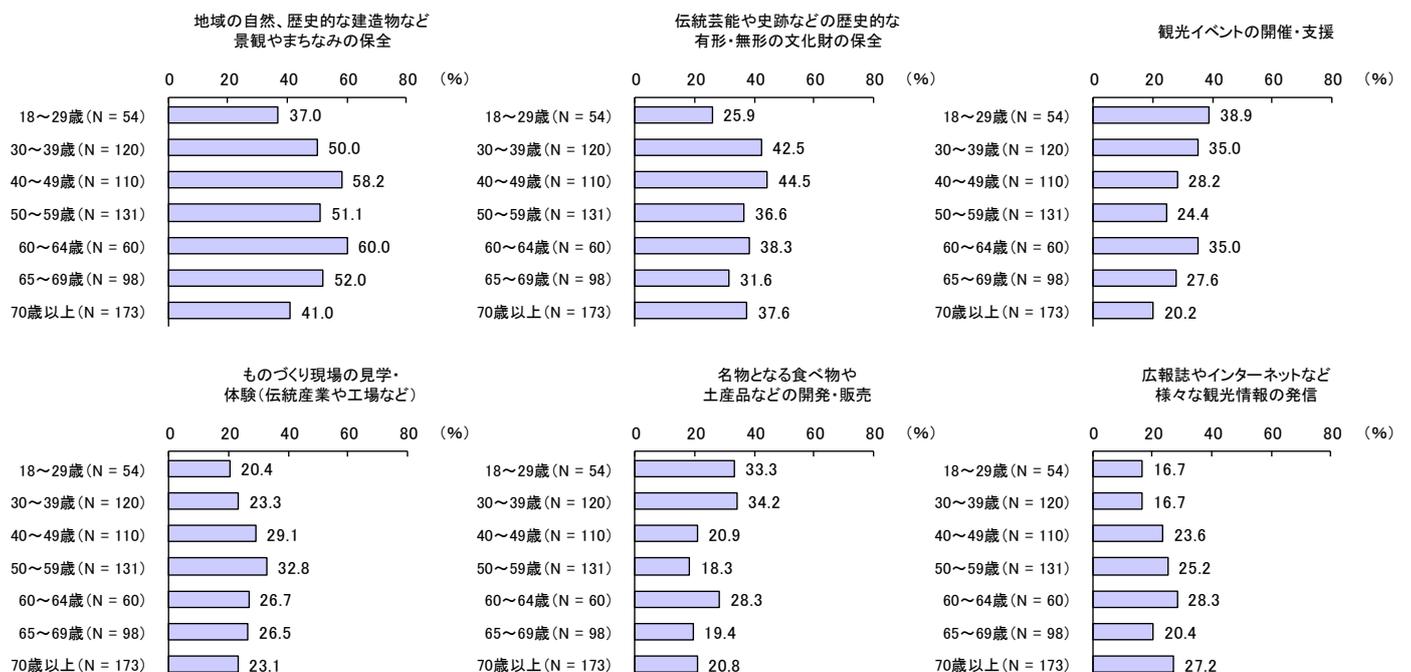
「地域の自然、歴史的な建造物など景観やまちなみの保全」(49.0%)が5割近くと最も高く、「伝統芸能や史跡などの歴史的な有形・無形の文化財の保全」(37.2%)、「観光イベントの開催・支援」(27.9%)と続いている。

年齢別では、30歳以上で「地域の自然、歴史的な建造物など景観やまちなみの保全」が最も高くなっている。

◇「学習の場の充実(図書館や文化・スポーツ施設等)」「多様な学習意欲に応える講座等の充実」が3割以上。60～64歳では「多様な学習意欲に応える講座等の充実」が最も高い。



◇「地域の自然、歴史的な建造物など景観やまちなみの保全」が5割近くで、30歳以上の年代で最も高い。



8 「花*みどり」・やすらぎ戦略】

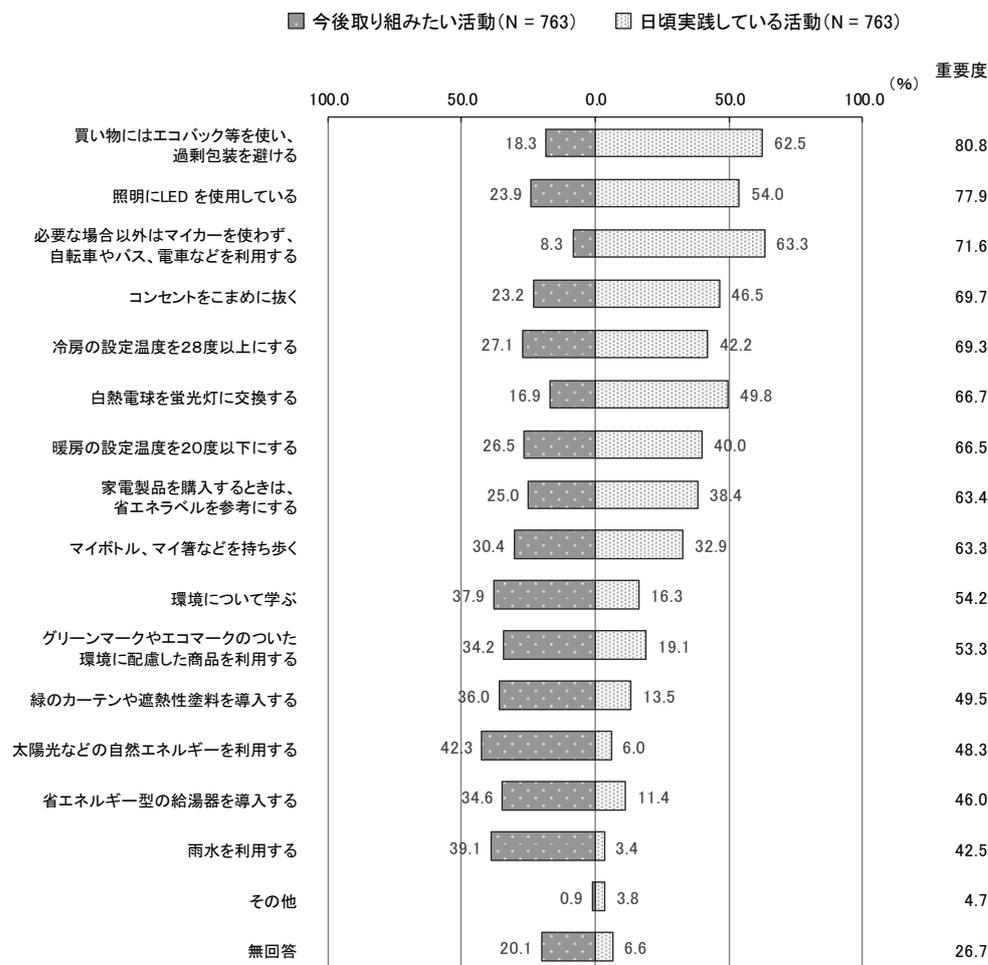
＜環境への配慮＞

◇日頃実践している活動は「自転車やバス、電車の利用」、今後取り組みたい活動は「自然エネルギーの利用」、重要度は「エコバック等を使い、過剰包装を避ける」が最も高い。

日頃実践している活動は「必要な場合以外はマイカーを使わず、自転車やバス、電車などを利用する」(63.3%) が6割超と最も高く、「買い物にはエコバック等を使い、過剰包装を避ける」(62.5%)、「照明にLEDを使用している」(54.0%)と続いている。

今後取り組みたい活動は「太陽光などの自然エネルギーを利用する」(42.3%) が4割超と最も高く、「雨水を利用する」(39.1%)、「環境について学ぶ」(37.9%)と続いている。

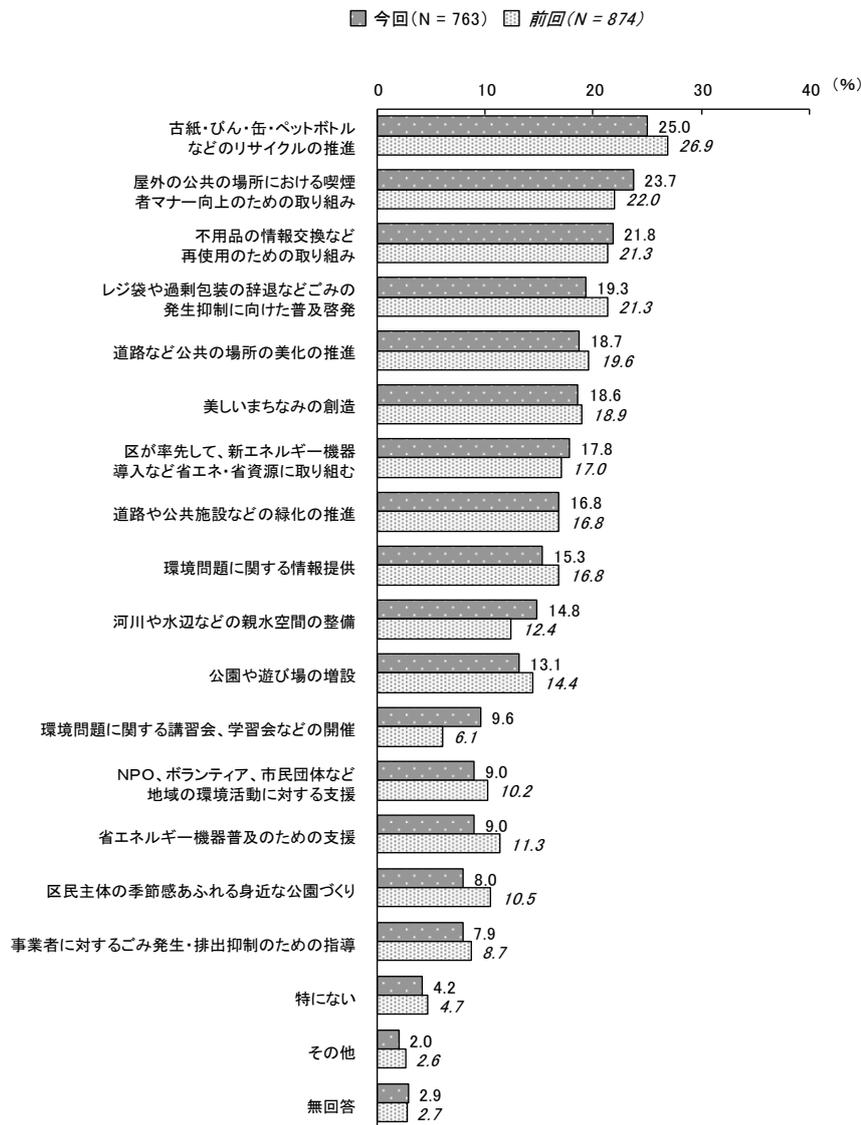
日頃取り組んでいる活動の割合と今後取り組みたい活動の割合の合計を『重要度』と捉えると、「買い物にはエコバック等を使い、過剰包装を避ける」で重要度が最も高く、次いで、「照明にLEDを使用している」、「必要な場合以外はマイカーを使わず、自転車やバス、電車などを利用する」となっている。



＜快適な都市環境のための重点施策＞

◇「リサイクルの推進」が最も高いほか、「河川・水辺などの親水空間の整備」、「喫煙マナー向上の取り組み」が増加している。

「古紙・びん・缶・ペットボトルなどのリサイクルの推進」(25.0%)、「屋外の公共の場所における喫煙者マナー向上のための取り組み」(23.7%)、「不用品の情報交換など再使用のための取り組み」(21.8%)と続いている。ただし、他の項目の割合と大きな差異はない。また、前回調査より「河川・水辺などの親水空間の整備」、「喫煙マナー向上の取り組み」が増加している。



【9 「安全・安心」・快適戦略】

＜日常的な不安感＞＜安心・安全なまちづくりのための重点施策＞

◇不安を『感じる』が3割半ば

日常的に不安を「感じる」人（9.2%）と「やや感じる」人（26.0%）を合わせた、『不安を感じる』人（35.2%）は3割半ばとなっている。

◇不安の内容は「自然災害」、「犯罪」が多い。

不安の内容は「地震や水害などの自然災害」（49.3%）が約5割と突出して高く、「振り込め詐欺や侵入盗などの犯罪」（29.9%）、「子どもの安全」（28.7%）、「騒音など近隣とのトラブル」（22.8%）と続いている。

◇安心なまちづくりには「防犯灯、防犯カメラなどの設置」、「防災対策」が必要。

安心なまちづくりのために効果的な取組みは「防犯灯、防犯カメラなどの設置」（46.7%）が4割半ばと突出して高く、「地震や水害などの自然災害に対する防災対策」（25.7%）、「防犯パトロールや安全マップづくりなど地域と連携した活動」（25.6%）と続いている。

◇自然災害に対しては「備蓄物資の確保」、「避難場所・避難所の確保」が必要。

自然災害に対して安全なまちにするため効果的な取組みは「食糧や簡易トイレなど備蓄物資の確保」（47.1%）が5割近くと最も高く、「防災公園の整備など避難場所・避難所の確保」（30.3%）、「学校や区民センターなど避難所となる区立施設の安全対策」（25.4%）と続いている。

＜災害への備え＞

◇災害の発生に対する備えをしている人が6割超

家庭で災害への備えをしている人（62.8%）が6割を超えており、備えをしていない人（34.5%）は3割半ばとなっている。

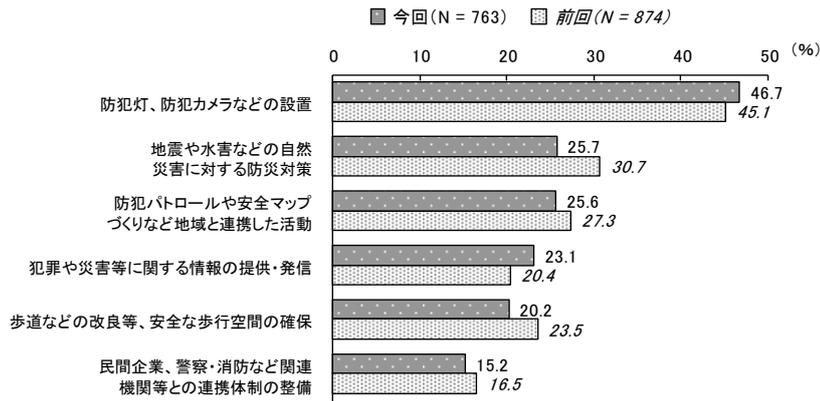
◇備えをしている人のうち「食料・飲料水の備蓄」をしている人が8割近く。「通信手段の確保」が1割半ばと低い。

災害への備えの内容は「食料・飲料水の備蓄」（77.2%）が8割近くと突出して高くなっている。次いで「避難用品の準備」（48.0%）、「避難所等の確認」（45.1%）、「家具等の耐震対策」（38.0%）、「常備薬の確保」（32.4%）、「通信手段の確保」（14.6%）と続いている。

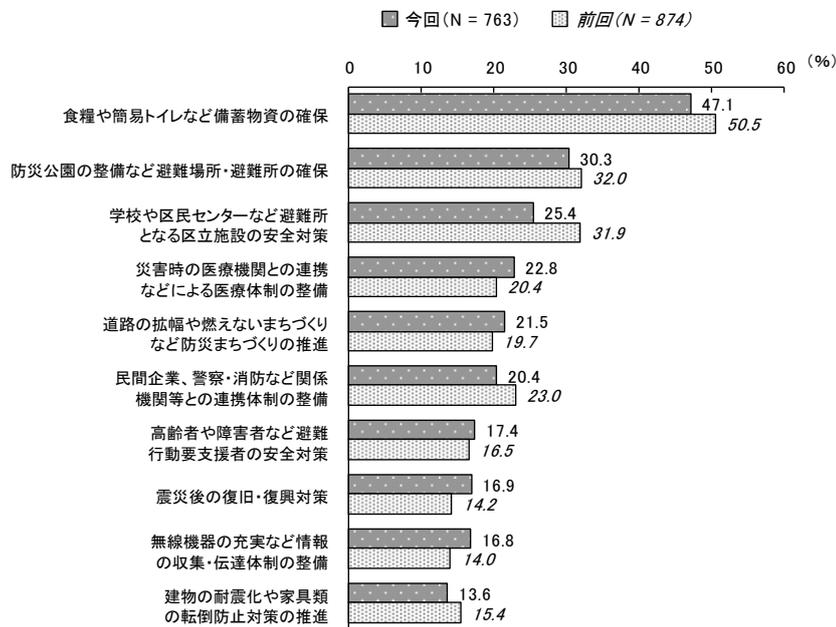
◇年齢が上がるにつれ「常備薬の確保」が多くなっている。

全年齢で「食料・飲料水の備蓄」が最も高くなっている。また、年齢が上がるにつれ「常備薬の確保」の割合が高くなっている。

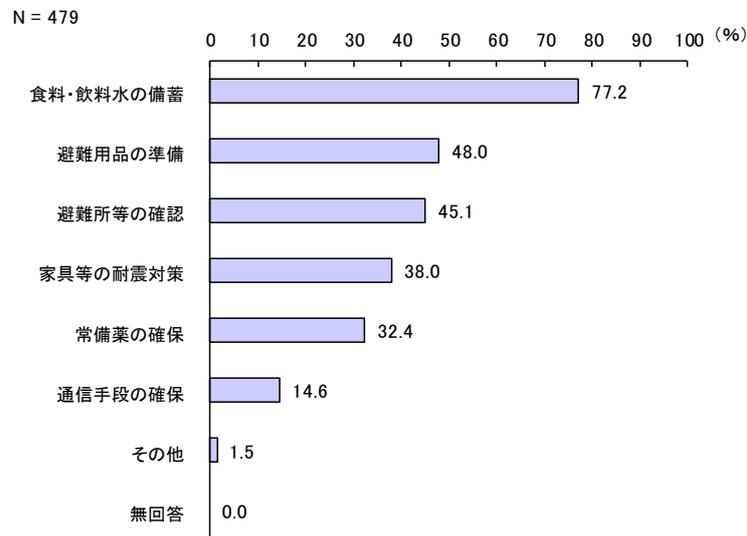
◇安心なまちづくりには「防犯灯、防犯カメラなどの設置」、「防災対策」が必要。



◇自然災害に対しては「備蓄物資の確保」、「避難場所・避難所の確保」が必要。



◇備えをしている人のうち「食料・飲料水の備蓄」をしている人が8割近く。「通信手段の確保」が1割半ばと低い。



【10 北区の印象・将来像】

<区のイメージ>

◆北区の「便利で住みやすいまち」というイメージが愛着度の増加に寄与している

◇「便利で住みやすいまち」が5割半ば

「便利で住みやすいまち」(55.3%)が5割半ばと突出して高く、「緑豊かなまち」(14.0%)、「ごみごみしているまち」(11.5%)の順で続いている。

◇愛着度が高いほど「便利で住みやすいまち」、低いほど「ごみごみしているまち」の割合が高い

愛着度が高くなるにつれ「便利で住みやすいまち」の割合が高くなっている。また、愛着度が低くなるにつれ「ごみごみしているまち」の割合が高くなっている。

<区の将来像>

◆愛着を感じる人は「健やかに安心して暮らせるまち」を理想とする。

◆愛着を感じない人は「生活利便性の高いまち」を理想とする。

◇「健やかに安心して暮らせるまち」が5割超

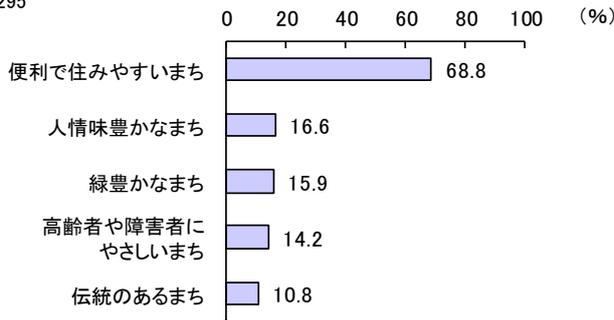
北区の理想の将来像は「健やかに安心して暮らせるまち」(52.7%)が5割超と最も高く、「安全で災害に強いまち」(35.8%)、「生活利便性の高いまち」(35.5%)と続いている。

◇愛着を感じない人は「生活利便性の高いまち」を理想とする。

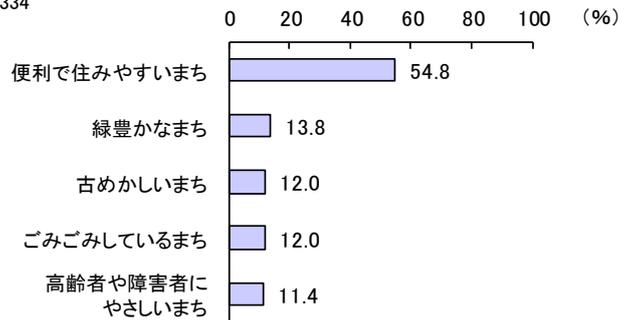
愛着度が高くなるにつれ「健やかに安心して暮らせるまち」の割合が高くなっている。また、「愛着を感じない”人は「生活利便性の高いまち」(57.6%)の割合が高くなっている。

◇愛着度が高いほど「便利で住みやすいまち」、低いほど「ごみごみしているまち」の割合が高い

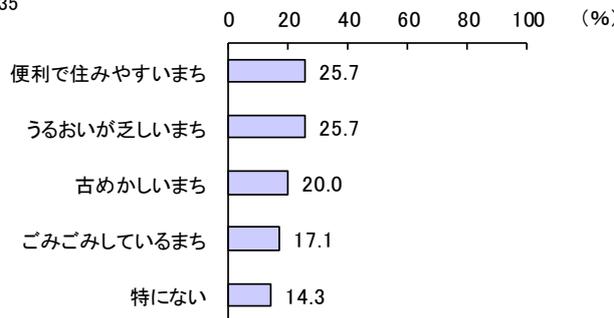
愛着を感じる
N = 295



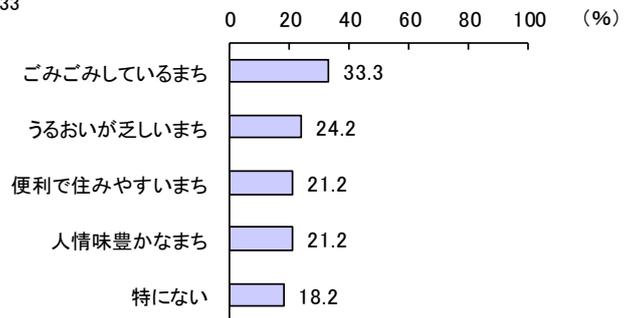
どちらかというとな愛着を感じる
N = 334



どちらかというとな愛着を感じない
N = 35

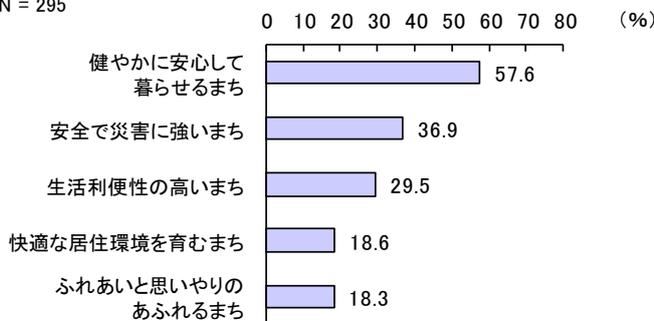


愛着を感じない
N = 33

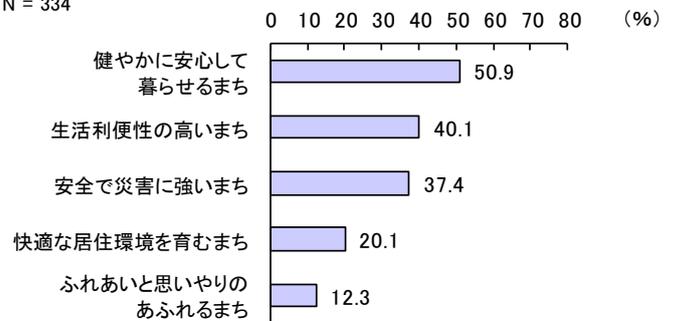


◇愛着を感じない人は「生活利便性の高いまち」を理想とする。

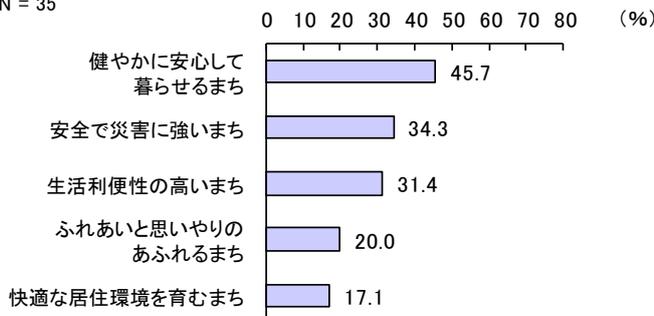
愛着を感じる
N = 295



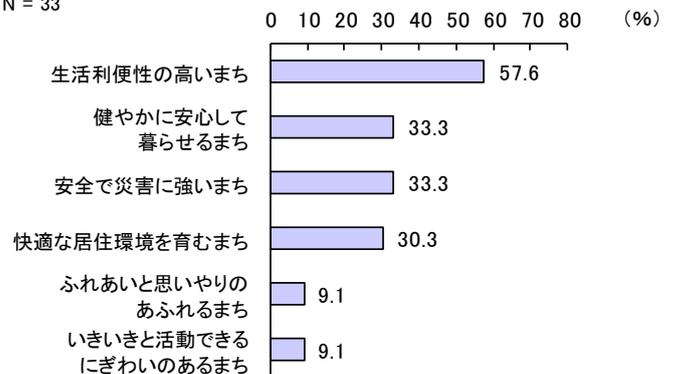
どちらかというとな愛着を感じる
N = 334



どちらかというとな愛着を感じない
N = 35



愛着を感じない
N = 33



<地域の将来像>

◇「公園や緑などの多い自然と親しめるまち」が4割半ば

「公園や緑などの多い自然と親しめるまち」(46.5%)が4割半ばと最も高く、「閑静で環境の良い住宅地」(44.3%)、「よい品物が安く購入できる商店があるまち」(32.5%)と続いている。

◇『非愛着派』で「閑静で環境の良い住宅地」の割合が高い

区への愛着度別でみると、『愛着派』に比べ『非愛着派』で「閑静で環境の良い住宅地」の割合が高くなっている。

<区のイメージアップ施策>

◆様々な情報メディアの活用が求められている

◇「多様なメディア媒体による報道」が4割超

「多様なメディア媒体(新聞・雑誌・テレビ・インターネット・フェイスブック・ツイッター)による北区に関する報道」(41.3%)が4割超と最も高く、「北区の魅力を伝える情報誌やマップの作成」(40.1%)、「北区ロケーション案内(映画、テレビなど)」(29.5%)と続いている。

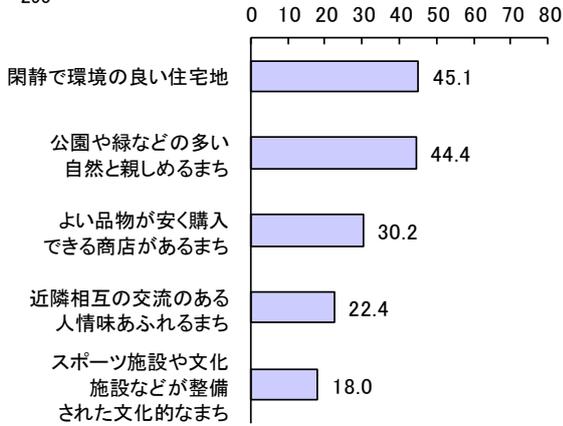
◇『知っている』が4割半ば

北区のブランドメッセージ「住めば、北区東京。」について、「見たり聞いたりしたことがあって意味も知っている」(16.1%)、「見たり聞いたりしたことはあるが意味は知らない」(28.6%)をあわせた『知っている』(44.7%)が4割半ばとなっている。

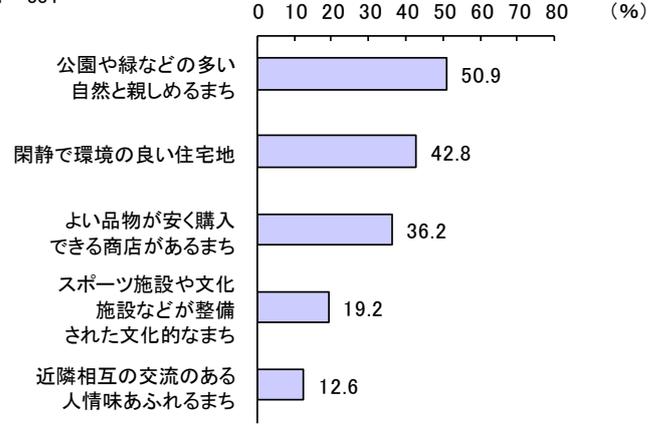
**住めば
北区東京。**

◇『非愛着派』で「閑静で環境の良い住宅地」の割合が高い

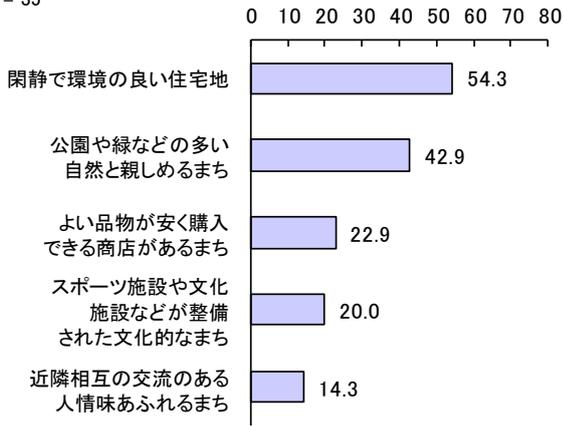
愛着を感じる
N = 295



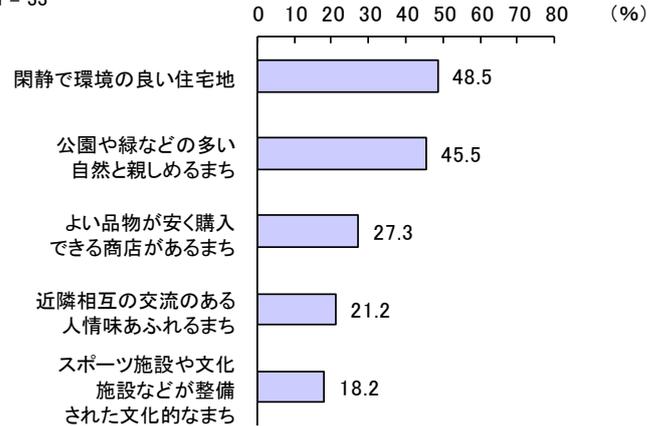
どちらかというとな愛着を感じる
N = 334



どちらかというとな愛着を感じない
N = 35

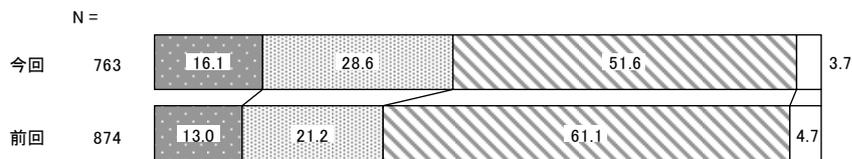


愛着を感じない
N = 33



◇『知っている』が4割半ば

- 見たり聞いたりしたことがあって意味も知っている
- ▨ 見たり聞いたりしたことはあるが意味は知らない
- まったく知らない
- 無回答



北区民意識・意向調査報告書
＜要約版＞

平成30年8月

刊行物登録番号

30-1-61

発行 北区政策経営部企画課
北区王子本町1-15-22
電話 03(3908)1104 (ダイヤルイン)

調査分析 株式会社名豊
愛知県名古屋市中区松原2-2-33
電話 052(322)0071 (代表)